

科目名 (英)	臨床歯科医学・口腔外科学Ⅰ Clinical Dentistry and Dental SurgeryⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	安部貴大
		授業 形態	講義	総単位 時間	8	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 1・2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 口腔外科を専門として、医学部・歯学部での診療、教育、研究に従事。医学生や歯							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 歯科医師として実務経験がある教員が、歯・口腔・顎・顔面の構造や機能、診察法について講義を行い、不明な点について質疑応答を繰り返すことで知識の定着を図る。その上で、それぞれの領域に発生する疾患やその治療法について講義を行い、歯科医学と言語聴覚士との連携の重要性を学習していく。 本科目では、基礎的な歯・口腔・顎・顔面の構造や機能、診察法について学び、それぞれの領域に発生する疾患やその治療法について理解を深めてほしい。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要な基本的な臨床歯科医学について学ぶことができる。 言語聴覚士として必要な歯科口腔外科領域の知識について学ぶことができる。 言語聴覚士として必要な歯科医学的な疾患や治療法について学ぶことができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書「最新言語聴覚学講座 臨床歯科医学・口腔外科学」 道健一 監修／高橋浩二・代田達夫・近津大地・野原幹司 編／医歯薬出版				【授業外における学習】 復習に力を入れ、専門用語と内容をしっかりと結びつける。 疑問を放置しない。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 歯科医療と歯科医療における言語聴覚士の役割を理解する。 歯・口腔・顎・顔面の構造を理解する。 【授業内容】 序 章 歯科概論 第1章 歯・口腔・顎・顔面の構造			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 歯・口腔・顎・顔面の機能を理解する。 歯・口腔・顎・顔面の診察法を理解する。 【授業内容】 第2章 歯・口腔・顎・顔面の機能 第3章 歯・口腔・顎・顔面の診察法			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 歯・歯周組織の疾患および歯科医学的処置を理解する。 【授業内容】 第4章 歯・歯周組織の疾患および歯科医学的処置			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 口腔・顎・顔面の疾患および歯科医学的処置を理解する。 【授業内容】 第5章 口腔・顎・顔面の疾患および歯科医学的処置			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 口腔・顎・顔面の疾患および歯科医学的処置を理解する。 口腔ケアを理解する。 【授業内容】 第5章 口腔・顎・顔面の疾患および歯科医学的処置 第6章 口腔ケア			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 口腔機能障害に対する歯科医学的対応を理解する。 口腔機能発達不全症に対する歯科医学的対応を理解する。 【授業内容】 第7章 口腔機能障害に対する歯科医学的対応 第8章 口腔機能発達不全症に対する歯科医学的対応			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 中枢性疾患による口腔機能障害と歯科医学的対応を理解する。 加齢による口腔機能障害と歯科医学的対応を理解する。 【授業内容】 第9章 中枢性疾患による口腔機能障害と歯科医学的対応 第10章 加齢による口腔機能障害と歯科医学的対応			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 第1回から第7回までの授業を振り返り、 歯・口腔・顔面領域における疾患や歯科医学的対応を理解する。 【授業内容】 定期試験 試験解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	導入教育	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	奥山裕太、矢代のぞみ
	introduction education	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月火水木金 1～3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 医療系学校で勤務、医療系・工学系科目を中心に授業を実施、チームで課題解決能力を図る学習法を確立してきた教務経験を持つ。 多様な業種の人材マッチングを通じて、調整力と課題解決力を発揮し、円滑な就業支援体制の構築に携わってきた経験を持つ。							
【授業の学習内容】 ・クラスで問題解決をおこさない、他者を知る。学校生活のルールと心構えを学び、学校生活のイメージを持つ事が出来る。							
【到達目標】 ・学校生活になれる ・目標を立てる ・個々の役割に挑戦してみる							
【使用教科書・教材・参考書】 ・電子端末				【授業外における学習】 ・自分を見つめなおし、自身で目標を立てる事が出来る			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 1年間の学校生活のイメージを持つ 【授業内容】 マイクロソフトの登録			9	【到達目標】 自己分析をし、自分を知る。ICTツールの運用を考える 【授業内容】 ITリテラシー、CSA		
2	【到達目標】 クラスで関わりを持ち、クラスメイトの事を知る 【授業内容】 マイクロソフトの登録			10	【到達目標】 クラスメイトの価値観を理解する 【授業内容】 トランプ×トランプ		
3	【到達目標】 問題解決ワークを通してクラス個々の価値観を知る 【授業内容】 問題解決ワーク			11	【到達目標】 チームで自己の意見を言える、他者の意見を理解できる 【授業内容】 プレゼン作成と発表		
4	【到達目標】 問題解決ワークを通してクラス個々の価値観を知る 【授業内容】 問題解決ワーク			12	【到達目標】 チームでの意見をまとめクラス目標を決める 【授業内容】 プレゼン作成と発表		
5	【到達目標】 学年の垣根を超え、学校生活に慣れる 【授業内容】 学年合同授業			13	【到達目標】 チームでの意見をまとめクラス目標を決める 【授業内容】 プレゼン作成と発表		
6	【到達目標】 問題解決ワークを通してチームの事を知る 【授業内容】 問題解決ワーク			14	【到達目標】 クラス、個人目標を決め、表出する 【授業内容】 bing、クラス目標づくり		
7	【到達目標】 学校生活での授業準備を行える 【授業内容】 電子教科書の登録			15	【到達目標】 来週の授業へ向けて自身の目標に進むことが出来る 【授業内容】 導入教育振り返り		
8	【到達目標】 問題解決ワークを通してチームの事を知る 【授業内容】 問題解決ワーク			【評価について】 出席、プレゼン作成、振り返りを総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70％に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】							

科目名 (英)	コンピューター computer	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	BSC(ブレーンスタッフコンサルタンツ)
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 火曜 3限
学科・コース	言語聴覚士科 1年生						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) プログラマー、Webデザイナー、パソコン教室の講師、ITコンサルタントなどの実績を持つ所属インストラクターが講義を実施							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 滋慶学園グループ所属企業の(株)ブレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについて講義を実施。Wordのビジネス文章作成や、PowerPointのプレゼンテーションスライド作成を基礎から学習。 学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用。							
【到達目標】 ・タイピングの基礎を身に付ける ・Wordを利用し、複合文書の作成ができる。 ・PowerPointを利用し、効果的なスライドの作成ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 滋慶学園グループの学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用				【授業外における学習】 e-learningテキストで操作方法を確認し、繰り返し練習することでスキルを定着する			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 入門:IT・DXリテラシー 講座を受講する意義を理解し、IT・DXリテラシーを知り、情報を正しく活用できる 【授業内容】 1.CGT講座を受講する意義 2.IT・DXリテラシーを学ぶ 3.IT・DXリテラシー理解度テストの実施			9	【到達目標】 メールマナー 受け取り手に好印象を与えるメールを作成できる 【授業内容】 1.メールの作成方法 2.署名の登録方法 3.添付書類PDF変換方法		
2	【到達目標】 入門:PC基本操作 PCの基本操作ができる 【授業内容】 1.マウス/タッチパッド操作 2.ファイルの管理 3.タイピングの基礎 4.キーボードの機能(ショートカット等)			10	【到達目標】 PowerPointダイジェスト プレゼンテーションソフトの基本操作ができる 【授業内容】 1.テーマとバリエーション 2.図形や画像の挿入 3.アニメーション効果 4.画面切り替え効果 5.ノートの作成		
3	【到達目標】 Word基礎1 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる 【授業内容】 1.ビジネス文書とは 2. ページ設定 3. インデント 4. 箇条書きと段落番号 5. 均等割り付け 6. 表の作成			11	【到達目標】 PowerPointアドバンス デザインに配慮した図解を作成し、表や図表を効果的に活用できる 【授業内容】 1.テーマの配色 2.図解の利点 3. 表の利点と作成・編集 4.SmartArtグラフィックの作成・編集		
4	【到達目標】 Word基礎2 画像や図形を駆使した文書を作成できる 【授業内容】 1. 図形や画像を駆使した文書 2. 画像の編集 3. テキストボックス 4. Excelグラフの貼り付け 5. 図形の編集			12	【到達目標】 PowerPoint自己紹介作成 自己紹介スライドを作成できる 【授業内容】 1.自己紹介スライドの作成(画像・図形などの活用) 2.リハーサル		
5	【到達目標】 Word基礎3 表を駆使した文書を作成できる 【授業内容】 1.表を駆使した文書 2.表の基本 3.複雑な表の作成 4.表の編集			13	【到達目標】 PowerPointブラッシュアップ フォントや配色などを工夫して見やすいスライドに編集できる 【授業内容】 1. レイアウト 2. フォント 3. 効果的な表現方法 4. 色の活用		
6	【到達目標】 Word応用 長文作成における必要な操作ができる 【授業内容】 1.ヘッダー・フッター 2.インデント 3.目次 4.セクション区切り・段区切り 5.脚注			14	【到達目標】 PowerPoint試験対策問題 PowerPoint基礎で習ったことを実践できる 【授業内容】 PowerPoint復習問題の実施		
7	【到達目標】 Word試験対策 Word基礎1-3で学んだスキルを実践して文章作成できる 【授業内容】 Word復習問題を実施			15	【到達目標】 PowerPoint試験 前期試験 【授業内容】 前期試験		
8	【到達目標】 Word中テスト 前期中テスト 【授業内容】 前期中テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	プロ養成講座	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	奥山裕太、矢代のぞみ
	Professional Training Course						
	学科・コース	言語聴覚士科	授業形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間
【実務経験】							
医療系学校で勤務、医療系・工学系科目を中心に授業を実施、チームで課題解決能力を図る学習法を確立してきた教務経験を持つ。 多様な業種の人材マッチングを通じて、調整力と課題解決力を発揮し、円滑な就業支援体制の構築に携わってきた経験を持つ。							
【授業の学習内容】							
卒業までに越えるべきハードル【臨床実習/国家試験/就職】、卒後の社会人生活を見越して、 『コミュニケーション技術（聞く・話す・書く・読む）』の理解を図り、今後に向けての基礎形成を図る。 ①様々な方と話したり聴いたり(良好な関係)ができる。②文章を正しく読む(理解する)ことができる。③自身の考えを分かりやすく書く(表現する)ことができる。							
【到達目標】⇒ 聞く・話す・書く・読むのコミュニケーション技術を身につける							
(1) 話し言葉コミュニケーション技術を身につける『①聞き上手の技法、②話し上手の技法、③説得上手の技法』							
(2) 書き言葉コミュニケーション技術を身につける『①読み上手の技法、②書き上手の技法Ⅰ(テーマ探しの技法)、③書き上手の技法Ⅱ(五感で書く技法)』							
(3) コミュニケーション技法を応用する『①自分探しの技法、②インタビューの技法、③人間関係を深める技法』							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
滋慶教育科学研究所：本物の国語力が身につくコミュニケーション技法				日常生活を実践の場として捉えて授業で身につけた力を日頃から活用する (クラス内での発言や行動、他授業の学び方、患者さんバイザーとのやりとり)			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 本授業の目的やスケジュールが理解出来る 学習の仕方を理解できる 【授業内容】 授業の方針説明（授業項目とスケジュールの確認） コミュニケーション技法を学ぶ目的と目標、学習の仕方			9	【到達目標】 コミュニケーション技法の応用① (自分探しの技法) 【授業内容】 自分との深い対話 自分史づくり		
2	【到達目標】 聞き上手の技法を理解する 【授業内容】 聞くことから始まることの理解 聞き上手の技法3つの基本(向き合う、受け入れる、確認する)			10	【到達目標】 コミュニケーション技法の応用② (インタビューの技法) 【授業内容】 インタビューは仕事の基本 インタビューの技法3つの基本(準備、傾聴、省略)		
3	【到達目標】 話し上手の技法を理解する 【授業内容】 話し上手は聞き手が決める/話し上手は準備で決まる 話し上手の技法3つの基本(絞る、合わせる、傾ける)			11	【到達目標】 コミュニケーション技法の応用③ (人間関係を深める技法) 【授業内容】 ジョハリの窓 たいやき		
4	【到達目標】 説得上手の技法を理解する 【授業内容】 聞き上手×話し上手 説得技法3つの基本(具体的に決める、傾聴する、シンプルに話す)			12	【到達目標】 コミュニケーション技法の応用④ 【授業内容】 自分の伝えたい情報を感覚的なものでなく論理的に発信できる ワーク：『ディベート①』		
5	【到達目標】 読み上手の技法 【授業内容】 文章上達の秘訣 読み上手の技法3つの基本(とばし読み、拾い読み、読み直し+α)			13	【到達目標】 コミュニケーション技法の応用⑤ 【授業内容】 自分の伝えたい情報を感覚的なものでなく論理的に発信できる ワーク：『ディベート②』		
6	【到達目標】 書き上手の技法Ⅰ『テーマ探しの技法』 【授業内容】 書き慣れるか、名文を読むか テーマ探しの技法3つの基本(仮テーマ、KJ法メモ、本テーマ)			14	【到達目標】 後半：今まで復習とまとめ (コミュニケーション技法の応用) 【授業内容】		
7	【到達目標】 書き上手の技法Ⅱ『五感で書く技法』 【授業内容】 描写が共感を生む 五感で書く技法3つの基本(よく視る、目以外の感覚、言葉にする)			15	【到達目標】 今まで復習とまとめ 【授業内容】 期末テスト ※内容：『穴埋め』『ワークの気づき論述』		
8	【到達目標】 前半：今まで復習とまとめ (話し言葉コミュニケーション、書き言葉コミュニケーション) 【授業内容】 中間テスト ※内容：『穴埋め』『ワークの気づき論述』			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70％に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】 毎回の授業の中で気づいたことはメモしていく。							

科目名 (英)	言語聴覚障害概論 Introduction to Speech and Hearing Disabilities	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小林 穰
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 1限
学科・コース	言語聴覚士科						
【教員実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 0歳から高齢者までの医療・療育・教育・在宅での幅広い臨床経験を活かし、それぞれの言語聴覚障害の症例を紹介したり動画などを用いて、印象に残る授業を行う。本科目は、専門分野の導入的な授業であり、言語聴覚障害の各論の概論について学ぶ。多くの言語聴覚障害についてイメージを膨らませ、言語障害の当事者や家族の困り感を感じられるようになってほしい。							
【到達目標】 ・言語聴覚障害の種類、コミュニケーションの特徴が分かる。 ・失語症、言語発達障害、高次脳機能障害、音声障害、構音障害、吃音、摂食嚥下障害、聴覚障害の概要が分かる。 ・ICFや職業倫理や言語聴覚士法が分かる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論」 医学書院				【授業外における学習】 教科書該当ページを読んで予習できると良い。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 言語聴覚障害の種類が分かる。今後の教育内容が分かる。 【授業内容】 p2-5,36-41 言語聴覚障害の3大タイプや狭義広義の言語聴覚障害について学ぶ。言語聴覚士科Ⅱ部で学ぶ科目の内容について学ぶ。			9	【到達目標】 運動障害性構音障害のタイプや症状や評価の概要が分かる。 【授業内容】 p142-150 症状をCDを聞きながら学ぶ。標準ディサスリア検査や治療の概要について学ぶ。		
2	【到達目標】 言語以外のノンバーバルコミュニケーションが分かる。コミュニケーションの過程が分かる。 【授業内容】 p45-52 コミュニケーションの成り立ち、言語コミュニケーションの過程、言語聴覚障害の種類について学ぶ。			10	【到達目標】 吃音の症状や原因が分かる。吃音の評価や指導の概要が分かる。 【授業内容】 p151-159 事例を通して、連発・伸発・難発などの症状や困り感を理解する。吃音の原因や間接的・直接的アプローチについて学ぶ。		
3	【到達目標】 失語症の聴く・話す・読む・書くの症状やタイプが分かる。失語症の評価の概要が分かる。 【授業内容】 p88-97 失語症の基本概念、症状、タイプ、評価の流れについて、動画を用いて学ぶ。			11	【到達目標】 摂食嚥下障害の5期モデルが分かる。スクリーニングと代表的な訓練法が分かる。 【授業内容】 p160-170 健常の摂食嚥下のしくみや誤嚥について学ぶ。RSSTやMWSTについて演習をまじえて学ぶ。		
4	【到達目標】 言語発達障害の分類と治療の概要が分かる。 【授業内容】 p99-107 SLIやASDなどの特徴、評価診断のポイント、代表的な言語治療について学ぶ。			12	【到達目標】 聴覚障害の種類やコミュニケーションモードが分かる。指文字や簡単な手話ができる。 【授業内容】 p172-180 事例を通して聴覚障害者の生き方を考える。簡単な手話や指文字を学ぶ。新生児の難聴のスクリーニングとケアを学ぶ。		
5	【到達目標】 高次脳機能障害の種類と症状が分かる。 【授業内容】 p109-117 事例動画を見ながら、失行、半側空間無視、構成障害、注意障害などの臨床上よく出会う障害の特徴について学ぶ。			13	【到達目標】 医療倫理や言語聴覚士の倫理が分かる。言語聴覚士法の要点が分かる。 【授業内容】 p207-209, p219-220 言語聴覚士法の欠格事由・免許の交付・診療の補助行為・連携・守秘義務・名称独占・厚生労働省令で定める行為について学ぶ。		
6	【到達目標】 音声障害の評価の概要が分かる。喉頭摘出後のコミュニケーションが分かる。 【授業内容】 p121-128 声が出るしくみ、音声障害の評価や分類や治療の概要を学ぶ。喉摘後の人工喉頭、食道発声、気管食道瘻発声について学ぶ。			14	【到達目標】 これまでの学習内容を復習し、臨床実習や国家試験に対応できる力を身につける。 【授業内容】 これまでの学習内容について、問題を解きながら復習する。		
7	【到達目標】 機能性構音障害の構音の誤りが分かる。評価や治療の概要が分かる。 【授業内容】 p136-141 代表的な構音方法や異常構音について学ぶ。構音検査と構音治療の概要について演習もまじえて学ぶ。			15	【到達目標】 定期試験を通し、これまでの学習を総復習する。 【授業内容】 定期試験および解説授業を行う。		
8	【到達目標】 ICFモデルが分かる。 【授業内容】 p188-195 中間試験を実施する。機能・活動・参加・環境因子などのICFモデルについて、自身を振り返り内容を考える。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	神経系の構造・機能・病態Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1年生	担当教員	小林 穂
	Physical and Functional Diseases of the Nervous SystemⅠ	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分	前 期 金曜 1限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】							
言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験あり。							
【授業の学習内容】							
脳・脊髄の中樞神経系、末梢神経系は、感覚受容、情報処理などを行う器官系であり、反応を引き起こすために欠かせない情報伝達を担う。機能が部位ごとに異なり(機能局在)、決まった経路(伝導路)で連絡している。日常生活を営む上で、どのような機能を果たしているか、その働きを理解するために、基本的構造と機能、病態についてわかりやすく学習する。							
【到達目標】							
① 脳や神経の各部名称を説明することができる。 ② 脳・神経疾患の病態や治療を学び、患者の障害像を理解、説明することができる。 ③ 神経系の解剖や機能を結び付けて考えることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・「絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム第4版」医学書院 ・参考書 配布資料 他				専門用語について、事前学習をしておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 外力から中枢神経を守るしくみを構築学的な面から学ぶ。「中枢神経系」「末梢神経系」の神経学的な区別、基本原則などを説明できる 【授業内容】 ①中枢神経系をとりまく環境 ②中枢神経系と末梢神経系			9	【到達目標】 運動神経経路、ニューロン、反射、麻痺、症状、感覚を感じるしくみや特徴、伝導路や感覚障害の特徴、てんかんのメカニズムを説明できる。 【授業内容】 ①運動麻痺について ②感覚障害について ③てんかんについて		
2	【到達目標】 中枢神経系の中心である大脳について学ぶ。どのような構成となっているか、どのような働きを説明することができる。 【授業内容】 ①大脳について ②大脳の構成、働き			10	【到達目標】 脳神経の構成を学び、それぞれの神経のしくみ、障害された場合の症状を説明することができる。 【授業内容】 ①それぞれの脳神経について ②しくみ、症状		
3	【到達目標】 中枢神経系の中心である大脳について学ぶ。どのような構成となっているか、どのような働きを説明することができる。 【授業内容】 ①大脳について ②大脳の構成、働き			11	【到達目標】 脳神経の構成を学び、それぞれの神経のしくみ、障害された場合の症状を説明することができる。 【授業内容】 ①それぞれの脳神経について ②しくみ、症状		
4	【到達目標】 小脳について学ぶ。周囲の神経組織との連絡路、脳幹に集中する脳神経核、神経線維について学び、説明できる。 【授業内容】 ①小脳について ②脳幹について			12	【到達目標】 脳神経の構成を学び、それぞれの神経のしくみ、障害された場合の症状を説明できる。摂食嚥下障害の発生メカニズムを説明できる。 【授業内容】 ①それぞれの脳神経について ②しくみ、症状 ③摂食嚥下障害について		
5	【到達目標】 脊髄における運動・感覚神経の脊髄内の走行などを学び、説明できる。脳循環のしくみ、その働き、髄液の働きを学び、説明できる。 【授業内容】 ①脊髄について ②脳循環について ③脳脊髄液について			13	【到達目標】 小脳がもつしくみと、疾患、障害によってみられる症状について説明できる。神経障害によっておこる排尿障害を説明できる。 【授業内容】 ①小脳の障害 ②排尿障害		
6	【到達目標】 意識を保つための仕組みと働き、意識障害をみるポイントを説明できる。脳ヘルニアのメカニズムと病態を知り、特徴を説明することができる。 【授業内容】 ①意識障害について ②脳ヘルニアについて			14	【到達目標】 脳血管障害の分類、症状、好発部位などを知り、治療やケア、合併症などを説明することができる。 【授業内容】 ①脳血管障害について ②分類、症状、好発部位		
7	【到達目標】 言語障害のメカニズム、高次脳機能障害の症状、病巣、特徴を説明できる。脳組織の生理的老化や認知症の原因、進行過程、疾患を説明できる。 【授業内容】 ①言語障害について ②高次脳機能障害について ③認知症について			15	【到達目標】 神経系の構造・機能・病態におけるポイント、総合的な理解を再確認する。 【授業内容】 ①神経系のまとめ ②定期試験		
8	【到達目標】 運動神経経路、ニューロン、反射、麻痺、症状などを学ぶ。感覚を感じるしくみや特徴、伝導路や感覚障害の特徴を説明することができる。 【授業内容】 ①運動麻痺について ※中間テスト ②感覚障害について			【評価について】			
【特記事項】				筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			

科目名 (英)	医学総論 Medical introduction	必修 選択	必修	年次	1年生	担当教員	小林 穰
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前 期 火曜 1,2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 言語聴覚士として、医療に従事していくうえで、幅広い医学知識を持つことは非常に重要な事柄の一つであるといえる。医療従事者として必要な知識、専門用語や歴史、我が国の現状や展望、医療倫理・インフォームドコンセント・チーム医療などについて、具体的でわかりやすい授業を行なう。							
【到達目標】 ① コメディカルに必要とされる医学知識を学び、説明することができる。 ② 我が国の医学の概略、医療全体の現状を学び、今後どのように発展していくかを考え、説明することができる。 ③ 言語聴覚士として、医療分野でどんな役割を持ち、今後どうあるべきかを考え、説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・参考書、配布資料 他				【授業外における学習】 教科書は特にありません。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 医学とはなにか、定義・歴史について学ぶ。医学の発展と倫理観を、医学的、社会的見地から理解し、説明することができる。 【授業内容】 ①医学の定義と使命・歴史 ②医学の発展と倫理			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 我が国における人口統計、疾病について学び、原因、対応だけでなく、生活への影響などを理解し、説明することができる。 【授業内容】 ①人口統計と疾病の変化 ②生活への影響、対応			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 健康とは何か、その概念や「訪台」についてを学ぶ。ICFの大まかな概念を理解し、QOL、医療・生活モデルについて説明することができる。 【授業内容】 ①健康の概念・状態 ②QOL、医療・生活モデル ③ICFの概念・考え方			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 ICFの大まかな概念を理解し、QOL、医療・生活モデルについて説明することができる。 【授業内容】 ①ICFの考え方 ②中間テスト			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 医療に関する職種と施設を知り、現状を把握、理解し、説明することができる。 【授業内容】 ①医療関係の職種 ②医療施設の種類の現状			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 保健医療の対策、各種法規を学び、理解し、説明することができる。 【授業内容】 ①医療保険対策 ②医事法・薬事法・衛生法規			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 感染対策としての基礎知識、原則を学び、標準予防策を理解し、説明、実施することができる。 【授業内容】 ①感染症対策の基礎知識 ②標準予防策			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 医学総論におけるポイント、総合的な理解を再確認する。 【授業内容】 ①医学概論のまとめ ②定期試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	解剖生理学 Anatomical and Physiology	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	坂 英樹, 岩脇淳志, 石井 猛
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	前期 木 曜 1・2 限
【実務経験】 歯科大学において解剖学での講義・実習を担当した経験を持つ。							
【授業の学習内容】 歯科医師として、解剖学・歯科法医学で博士(歯学)を取得した知識と経験から、人体と構造と機能についてpowerpointファイルを用いて提示するとともに、適宜模型を使用し立体的な学習方法により理解を深める。							
【到達目標】 言語聴覚士として必要となる基本的な人体の構造と機能(特に頭頸部)を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 ① 系統解剖学講座 人体の構造と機能[1]解剖生理学 第11版 ②『系統解剖学』準拠 解剖生理学ワークブック				【授業外における学習】 事前に資料と参考書の該当ページを確認し、講義に臨む			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【到達目標】 オリエンテーション 解剖生理学の定義、解剖学用語および細胞・組織を理解できる。 【授業内容】 解剖生理学の定義、解剖学用語、人体の構造、細胞の構造			17・18	【到達目標】 上肢、下肢の骨と筋の作用について理解できる。 蓋骨の構成について理解できる。 【授業内容】 上肢・下肢の骨学、筋学 蓋骨		
3・4	【到達目標】 消化に関わる臓器の構造と機能を理解できる。 【授業内容】 栄養の消化と吸収、口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸・膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能			19・20	【到達目標】 頭蓋骨の構成について理解し、付着する筋の作用および支配神経について理解できる。 【授業内容】 頭蓋骨、頭頸部の筋(咀嚼筋)		
5・6	【到達目標】 呼吸に関わる臓器の構造と機能を理解できる。 【授業内容】 呼吸器の構造と機能、機能的メカニズム、ガス交換、呼吸運動、呼吸器系の病態生理			21・22	【到達目標】 頭蓋骨の構成をもとにした頭頸部に付着する筋の作用および支配神経について理解できる。 【授業内容】 頭頸部の筋(表情筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群、咽頭・喉頭筋等)		
7・8	【到達目標】 血液の組成と機能、血液型、心臓の構造と機能について理解できる。 【授業内容】 血液(組成、血液凝固、血液型) 心臓の構造と機能			23・24	【到達目標】 神経系の構造と機能、中枢神経と末梢神経について理解できる。 【授業内容】 神経学総論 中枢神経(脳・脊髄)、末梢神経(脳神経・脊髄神経・自律神経)		
9・10	【到達目標】 血液循環とその調節について理解できる。 【授業内容】 血管の構造、末梢循環系の構造、血液循環(肺循環、体循環)、血液循環の調節			25・26	【到達目標】 感覚器の構造と特殊感覚、感覚と運動の伝導路を理解できる。 【授業内容】 高次機能、特殊感覚(視覚・聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚) 感覚器、感覚と運動の伝導路(上行性伝導路、下行性伝導路)		
11・12	【到達目標】 腎臓の構造と機能、体液の調節について理解できる。 【授業内容】 腎臓の構造と機能、排泄路、体液の調節と尿の生成			27・28	【到達目標】 皮膚を含めた生体防御機能、生殖器、発生と老化について理解できる。 【授業内容】 身体機能の防御と適応(皮膚、免疫) 生殖器、発生と老化のしくみ		
13・14	【到達目標】 内分泌系およびホルモン分泌の調節に関わる臓器の構造と機能について理解できる。 【授業内容】 自律神経、内分泌系、内分泌腺と腺細胞、ホルモン分泌			29・30	【到達目標】 これまでの学習内容を復習し、理解度を再確認する。 試験において全範囲の理解度の確認を行う。 【授業内容】 初回より前回までの復習 期試験・解説		
15・16	【到達目標】 試験において、これまでの内容の理解度を確認する。骨、筋の構造と特徴、および脊柱・胸郭の骨と筋の作用について理解できる。 【授業内容】 中間試験・解説 骨学・筋学総論 脊柱・胸郭の骨学、筋学			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小試験および中間試験を合わせた40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	rehabilitation medicine リハビリテーション医学	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	高木 亮
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 水曜 1限
学科・コース	言語聴覚学科						
【実務経験】							
急性期・生活期(訪問リハビリテーション)にて言語聴覚士として14年臨床を経験してきている							
【授業の学習内容】							
自身の件経験を踏まえて、これからリハビリテーション職を目指す生徒に対し、成人領域におけるリハビリテーション職に関わる領域に係る考え方、関係職種、病名、病態、治療法などをわかりやすく伝える。そうした上で、生徒たちが自身が志す領域の興味、関心を深めるとともに、医療者として自身の職域に求められる知識を身に着け、心構えができること目指していく。実体験を伝えながら、生徒たちにより現場をリアルに感じてもらえるような授業を行う。							
【到達目標】							
①言語聴覚士に関わるリハビリテーションの見方・考え方を理解することができる ②言語聴覚士に関わる、疾患・病態に対するリハビリテーションの理解を深めることができる ③3年後の国家試験に向けて、リハビリテーション医学に関する領域の知識を深めることができる							
【使用教科書・教材・参考書】 第2版リハビリテーションビジュアルブック				【授業外における学習】 定期試験は小テストから出題を予定しています。各自可能な限り復習をお願いします。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 リハビリテーションは何かと説明することができる 【授業内容】 医療におけるリハビリテーションとは何か リハビリテーションが目指すものはなにか			9	【到達目標】 廃用症候群について説明ができる 【授業内容】 廃用症候群について 廃用症候群と栄養の関連について		
2	【到達目標】 言語聴覚士の役割を説明できる 【授業内容】 リハビリテーションの構成メンバーの説明 チーム連携とは何かを知る			10	【到達目標】 フレイル・サルコペニア・転倒による骨折について説明できる 【授業内容】 フレイル・オーラルフレイル・サルコペニアについて 転倒予防・骨折(高齢者)について		
3	【到達目標】 リハビリテーション各期の流れを説明できる 【授業内容】 急性期・回復期・生活期のリハビリテーションとは何か 予防とは何か			11	【到達目標】 脊髄損傷について理解する。神経・筋疾患について理解する 【授業内容】 神経系の区分(中枢神経系、末梢神経系) 中枢神経系(脳、脊髄) 末梢神経系(体性神経系、自律神経系) 骨折・変形性関節症		
4	【到達目標】 「ICF」の考えを理解し、作成してみる 【授業内容】 ICFに基づく考え方 ICFを実際に作ってみよう			12	【到達目標】 神経筋疾患、肺炎などの呼吸器疾患について理解する 【授業内容】 各疾患の病態		
5	【到達目標】 脳血管疾患を理解する 【授業内容】 脳血管疾患(脳卒中)とは 脳血管障害の病態と治療			13	【到達目標】 ガンとそのリハビリテーションについて理解する。 【授業内容】 呼吸器疾患とは 虚血性心疾患・心不全とは		
6	【到達目標】 脳血管疾患の疾患概要・障害像・評価法理解する 【授業内容】 脳血管疾患の疾患概要・障害像・評価法とは			14	【到達目標】 障害受容について理解する。退院後のリハビリテーションと介護保険について説明できる。 【授業内容】 障害受容への段階はどのようなものか。		
7	【到達目標】 脳卒中へのアプローチ・リスク管理を理解する 【授業内容】 脳卒中へのアプローチ方法とは 脳卒中へのリスク管理を学ぶ			15	【到達目標】 定期試験を実施。総復習ができる 【授業内容】 定期試験 答え合わせ		
8	【到達目標】 認知症について疾患概要・障害像・評価方法を学ぶ 【授業内容】 認知症の疾患概要・障害像とは 認知症の評価方法について			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】 授業の進行具合にあわせて、中間テストを実施予定							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小林凌
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 2,3限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
訪問リハビリ7年、言葉の教室開設、臨床3年							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
言語発達障害児に対して言語聴覚療法を実践してきた経験を活かして、お子さんの具体的なイメージ、障害像を伝えていく。 障害児に対して想像し、グループワークにて意見を集約する							
【到達目標】							
・言語発達障害の基礎知識を理解し、説明できる。 ・言語発達障害の各障害別の言語コミュニケーションの特徴を理解し、説明できる。 ・言語発達障害に対する評価、指導について理解し、説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版」医学書院 配布資料							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 標準的言語発達について理解できる 【授業内容】 発達段階の期ごとに標準的な言語発達について学ぶ。標準的な言語発達を促す要因を理解する。			9	【到達目標】 TEACCHプログラムについて学び、説明できる。 【授業内容】 TEACCHプログラムの概要を学び、構造化について理解する。		
2	【到達目標】 言語発達障害の定義を学び、説明できる 【授業内容】 言語発達障害の定義、分類。成人の言語障害の臨床との違いを説明。			10	【到達目標】 知的能力障害の臨床像を理解する。 【授業内容】 知的能力障害の臨床像や特徴を学ぶ。		
3	【到達目標】 評価の目的、観点、手順、まとめ方を説明できる 【授業内容】 各検査の目的、対象年齢、検査の領域について説明。			11	【到達目標】 知的能力障害の定義と重症度分類について学び、説明できる。発達特徴について学び、説明できる。 【授業内容】 知的能力障害の定義(医学上・行政上)、疫学と原因論について学ぶ。		
4	【到達目標】 自閉スペクトラム症の定義、枠組み、歴史的背景を学び説明できる 【授業内容】 自閉スペクトラム症の定義や診断基準を説明。			12	【到達目標】 知的能力障害の言語・コミュニケーションの特徴を学び、説明できる。知的能力障害の評価の目的や種類を学び説明できる。 【授業内容】 知的能力障害の言語・コミュニケーションの特徴を説明。評価についての概要。		
5	【到達目標】 自閉スペクトラム症の原因や予後について学ぶ。言語コミュニケーションの特徴について説明できる。 【授業内容】 自閉スペクトラム症の有病率や原因。言語コミュニケーションの特徴について説明。			13	【到達目標】 知的能力障害の言語面の評価や知的面の評価について、各検査の種類と適応年齢や検査項目等の概要を学び説明できる。 【授業内容】 知的面・言語面の評価(検査法の種類・適応年齢など)を説明。		
6	【到達目標】 自閉スペクトラム症のコミュニケーションの評価について種類や概要を学び、説明できる。 【授業内容】 検査法の種類や適応年齢等を学ぶ。			14	【到達目標】 知的能力障害の支援に対する基本的な考え方を理解し、説明できる。 【授業内容】 支援についての基本的な考え方。社会資源の活用や発達段階ごとの支援について説明。		
7	【到達目標】 自閉スペクトラム症の治療について具体的な支援方法について学び、説明できる。 【授業内容】 自閉スペクトラム症の治療や具体的な支援方法。年代別の支援方法について説明。			15	【到達目標】 講義内容についての定期試験を実施し、知識の定着を図る。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 自閉スペクトラム症の言語コミュニケーション支援としてソーシャルスキルトレーニング、PECSについて理解し、説明できる。 【授業内容】 ソーシャルスキルトレーニングの概要、PECSを使用した支援について学ぶ。中間テスト。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	保健体育 health and physical education	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	安西真幸
		授業 形態	演習	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前期 木曜 3限
【実務経験】 ・知的障がい者へのダンス指導 ・放課後等ディサービス、療育施設、保育園、小学校でのダンスプログラム講師							
【授業の学習内容】 福祉施設や教育施設などで、対象者の年齢や障がいの有無に応じて、レクリエーションプログラムを考案・実施している講師が、現場で得られた経験や知識を元に授業を行い、レクリエーション活動を楽しむ円滑に実践できる能力を養う。							
【到達目標】 ・レクリエーション活動を楽しみ、自ら積極的に取り組むことができる。 ・レクリエーションの知識を元に、対象者や目的に応じて内容を選択・アレンジできる。 ・レクリエーションを円滑に行うためのコミュニケーションを取ることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 必要に応じて資料を配布する。				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 グループに分かれ課題やゲームに取り組む。グループ内でコミュニケーションや役割分担等を行う。 【授業内容】 コミュニケーション・ワーク演習			9	【到達目標】 ひとつのレクリエーションから、使う道具や人数などを変えて、別の状況にも対応する内容にアレンジできる。 【授業内容】 レクリエーション・アレンジ演習		
2	【到達目標】 グループに分かれ課題やゲームに取り組む。グループ内でコミュニケーションや役割分担等を行う。 【授業内容】 コミュニケーション・ワーク演習			10	【到達目標】 ひとつのレクリエーションから、使う道具や人数などを変えて、別の状況にも対応する内容にアレンジできる。 【授業内容】 レクリエーション・アレンジ演習		
3	【到達目標】 グループに分かれ課題やゲームに取り組む。設定された目標に対して、グループ内で意見調整を行い、協力して作業を行う。 【授業内容】 コミュニケーション・ワーク演習			11	【到達目標】 グループに分かれ、レクリエーションプログラムを作成・発表できる。 【授業内容】 レクリエーション実践		
4	【到達目標】 グループに分かれ課題やゲームに取り組む。設定された目標に対して、グループ内で意見調整を行い、協力して作業を行う。 【授業内容】 コミュニケーション・ワーク演習			12	【到達目標】 グループに分かれ、レクリエーションプログラムを作成・発表できる。 【授業内容】 レクリエーション実践		
5	【到達目標】 対象者、人数、場所等様々な状況を想定し、それぞれの場合でどのようなレクリエーションを行うか、計画し実施できる。 【授業内容】 状況に応じたレクリエーション演習			13	【到達目標】 グループに分かれ、レクリエーションプログラムを作成・発表できる。 【授業内容】 レクリエーション実践		
6	【到達目標】 対象者、人数、場所等様々な状況を想定し、それぞれの場合でどのようなレクリエーションを行うか、計画し実施できる。 【授業内容】 状況に応じたレクリエーション演習			14	【到達目標】 グループに分かれ、レクリエーションプログラムを作成・発表できる。 【授業内容】 レクリエーション実践		
7	【到達目標】 本講義での学習の理解を確認する。 【授業内容】 中間試験。演習、筆記試験			15	【到達目標】 本講義での学習の理解を確認する。 【授業内容】 定期試験、総復習		
8	【到達目標】 本講義での学習の理解を確認する。 【授業内容】 中間試験。演習、筆記試験			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	Introduction to Psychology 心理学概論	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	福井 博一
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分	前期 後半
学科・コース	言語聴覚士科・AMコース					曜日・時間	水曜 2・3限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
総合病院・精神科病院等で相談支援・リハビリ業務に携わってきた。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、総合病院・精神科病院・企業の相談室等にてカウンセリングや心理検査に携わってきた講師が、さまざまな視点から人々の心理・発達の基礎についてお伝えする。支援を求める人々と実践的にかかわることができるようになるために、実務経験上の具体例をふんだんに盛り込みながらお話をする。							
【到達目標】 次の2点を目標とする。 ①心理学に関する基礎的な知識について理解し、説明することができる。 ②支援を求める人々と実践的にかかわることができるようになるための基礎について理解し、説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 特に指定しない。授業内で、適宜、参考文献を紹介する。				【授業外における学習】 授業内容と、実習やアルバイト、そして、自分自身の日々の生活での出来事を結び付けて調べ・考えることは、立派な授業外における学習である。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 心理学の授業内容・到達目標について理解できる。心とは、ということについて理解し、説明することができる。 【授業内容】 ・オリエンテーション ・心とは			9	【到達目標】 児童期の発達について理解し、説明することができる。 ～その2～ 【授業内容】 ・いじめの現状について ・いじめ防止対策について		
2	【到達目標】 親子関係と発達について理解し、説明することができる。 ～その1～。 【授業内容】 ・精神分析について ・親子関係について			10	【到達目標】 思春期の発達について理解し、説明することができる。 ～その1～ 【授業内容】 ・友人関係について ・恋愛関係について		
3	【到達目標】 親子関係と発達について理解し、説明することができる。 ～その2～。 【授業内容】 ・ひきこもりについて ・反抗期について			11	【到達目標】 思春期の発達について理解し、説明することができる。 ～その2～ 【授業内容】 ・性と心の結びつきについて ・さまざまな性行動について		
4	【到達目標】 親子関係と発達について理解し、説明することができる。 ～その3～。 【授業内容】 ・不安について ・感情の発達について			12	【到達目標】 思春期の発達について理解し、説明することができる。 ～その3～ 【授業内容】 ・LGBT+について ・性別違和について		
5	【到達目標】 親子関係と発達について理解し、説明することができる。 ～その4～。 【授業内容】 ・食べることと心の結びつきについて ・摂食障害について			13	【到達目標】 成人期の発達について理解し、説明することができる。 ～その1～ 【授業内容】 ・お金と心の結びつきについて ・対人援助とお金について		
6	【到達目標】 親子関係と発達について理解し、説明することができる。 ～その5～。 【授業内容】 ・反応性愛着障害について ・児童心理治療施設について			14	【到達目標】 成人期の発達について理解し、説明することができる。 ～その2～ 【授業内容】 ・結婚について ・結婚に関する意識調査について		
7	【到達目標】 ・1～6回目の授業内容を振り返り、理解し、説明することができる。 ・心理検査を通じて自己理解を深める。 【授業内容】 ・1～6回目の復習と中間試験 ・心理検査実施			15	【到達目標】 1～14回目の授業内容を振り返り、理解し、説明することができる。 【授業内容】 1～14回目の復習と定期試験		
8	【到達目標】 児童期の発達について理解し、説明することができる。 ～その1～ 【授業内容】 ・道徳の発達について ・ギャング・エイジについて			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 特になし。							

科目名 (英)	言語発達学 前期 (Speech Development I)	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	小澤 佳夜子
		授業 形態	講義	総単位 時間	30時間 (2)	開講区分	前期 水曜 2限・3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
医療機関、通所介護・訪問介護施設でのリハビリ職員。児童発達支援・放課後等デイサービスの支援員。児童発達支援センターでの専門相談員。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
現在、児童発達支援センターの専門相談員として発達障害児の臨床、園巡回、乳幼児健診心理相談などを行う言語聴覚士が授業を行う。 言語は単にコミュニケーションの手段のみならず、言語獲得は認知発達、社会生活、自己概念形成まで及ぼすこと、いわゆる人として生きていく要因の基であることを念頭に置き、その上で実際の相談内容を交えながら小児の言語発達の各段階についての授業を行う。							
【到達目標】							
・言語の役割、言語発達の理論の概要を説明できる。 ・小児の発達の各領域について説明できる。 ・スクリーニングで使用する発達検査ができる。(KIDS、遠城寺式、PVT-R、質問応答検査)							
【使用教科書・教材・参考書】 音声学・言語学 第2班 (医学書院)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 言語発達学の授業内容を理解する 【授業内容】 「言語発達学Ⅰ」オリエンテーション。「言葉」とは何か(皆さんの「言葉」のイメージを教えてください)			9	【到達目標】 幼児期の言語発達を学習する① 【授業内容】 幼児期はコミュニケーション言語が完成する。2回にわたり、幼児期の認知の発達と、年齢別の発話の特徴を解説します。		
2	【到達目標】 言語発達の全体像を把握する 【授業内容】 「しゃべる」とはどういうことか。「しゃべる」ために必要なことは何か。普段使い慣れた「言葉」について専門的に説明します。			10	【到達目標】 幼児期の言語発達を学習する② 【授業内容】 幼児期の言語発達を主に言語学的な観点から学習します。(語彙・構文・談話の発達と音韻意識の発達)		
3	【到達目標】 言語発達を説明する理論を学ぶ 【授業内容】 言語発達は心理学の分野から説明されることが多い。言語発達に関わる理論を歴史的に概観し、心理学用語も覚えましょう。			11	【到達目標】 学童期の言語発達を学習する① 【授業内容】 コミュニケーション言語から学習言語へ移行する時にどのような力が必要になるのかを解説します。		
4	【到達目標】 前言語期の言語発達を学習する① 【授業内容】 生後1年間の音声知覚の発達と前言語期のコミュニケーション行動の発達を説明。国試頻出の用語が多いのでしっかり記憶します。			12	【到達目標】 学童期の言語発達を学習する② 【授業内容】 第11回に続き、学童期の学習言語に必要な力を解説。さらに、読み書きの発達と読み書き障害について学習します。		
5	【到達目標】 前言語期の言語発達を学習する② 【授業内容】 第4回目に続き、前言語期の認知機能の発達と運動機能の発達、発声及び音声の発達を学習します。			13	【到達目標】 言語発達障害の評価を学ぶ 【授業内容】 言語発達障害の評価はどのようにおこなわれているのか、臨床現場での評価の流れを説明。スクリーニング検査を解説し実践します		
6	【到達目標】 1～2歳の言語発達を学習する① 【授業内容】 言葉が話すようになる前後、子どもはどのようなコミュニケーションをしているのか、言葉はどのように増えていくのかを学習します。			14	【到達目標】 言語発達障害の評価ができる 【授業内容】 スクリーニング検査(KIDS、遠城寺式、PVT-R、質問応答検査)を実践します。		
7	【到達目標】 1～2歳の言語発達を学習する② 【授業内容】 言葉が増え、構文へと発達する過程を伝える。また、言語発達に必要な象徴機能や言語発達を促すかわりを解説します。			15	【到達目標】 言語発達学Ⅰまとめ 【授業内容】 第1回～第14回までの授業内容の定期試験を行います。また、試験後に解説を行い言語発達学Ⅰのまとめとします。		
8	【到達目標】 言語の役割、言語発達の理論、言語発達の過程の知識の定着 【授業内容】 第1回～第7回までの授業内容の中間試験を行います。試験後には解説を行います。			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	English I 英語 I	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	岩淵美嘉
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	前 期 金曜日 2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 医療専門職として病院、クリニックで実務を経験し、米国滞後は英語教師として医療系専門学校で20年以上英語教育に携わってきた。							
【授業の学習内容】 大学で英米文学を専攻、その後視能訓練士免許を取得、医療現場で実務に携わった経験のある教員が、医療現場に必要な英単語、さまざまな場面での英語表現を教える。外国人の増加に伴い、医療現場でも国際共通語である英語でのコミュニケーションの必要性は高まっている。また海外研修に向けて、ホテルやレストランで積極的に英語でコミュニケーションを取ることができるよう準備する。授業では学生同士ペアで英会話の練習をする。							
【到達目標】 医療現場に必要な専門英単語を覚え、患者さんと英語でコミュニケーションが取れるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】 医療英語コミュニケーション				【授業外における学習】 毎回、前の授業で学んだ医学英語の単語テストを行うため、復習して備えること。			
回	授 業 概 要				授 業 概 要		
1	【到達目標】 英語で自己紹介できる。 初診かどうか、保険証を持っているかどうか等を探す表現を習得する 【授業内容】 自己紹介 & Chapter 1 病院受付での会話			9	【到達目標】 さまざまな薬の英語名称を学び、服用方法を英語で説明できるようになる 【授業内容】 Chapter 17 処方箋と薬の説明		
2	【到達目標】 身体の一部や痛みの表現を学び、英語で簡単な問診ができるようになる 【授業内容】 Chapter 3 症状(1)			10	【到達目標】 海外研修に備えて、金額の読み方やレストランで注文する表現を学ぶ 【授業内容】 Fast food レストランでの会話練習		
3	【到達目標】 前回の授業で学んだ表現を応用して、自分の家族やペットなどについて説明できるようになり、自己紹介の内容をさらに充実させる 【授業内容】 自己紹介 & Chapter 3 症状(1)と応用会話			11	【到達目標】 海外研修に備えて、レストランでのメニューの読み方、注文、支払いの際に用いる表現を学ぶ 【授業内容】 レストランでの会話練習		
4	【到達目標】 さまざまな症状表現を学び、症状について簡単な問診ができるようになる 【授業内容】 Chapter 4 症状(2)			12	【到達目標】 症状や問診の英語表現を復習して、それぞれの症状に対する薬の服用方法を説明する。人体の臓器の英語名称を覚える。 【授業内容】 Chapter 17 処方箋と薬の説明 & 臓器の名称		
5	【到達目標】 症状表現を復習し、その症状がどれくらい続いているかを尋ねることができるようになる 【授業内容】 Chapter 4 症状(2)			13	【到達目標】 アレルギーや生活習慣について尋ねることができるようになる 【授業内容】 Chapter 6 問診(2)		
6	【到達目標】 言語聴覚士に必要な症状を追加で覚え、既往歴、家族歴について尋ねることができるようになる 【授業内容】 Chapter 5 問診(1)			14	【到達目標】 前期の授業で学んだ問診をテキストを見ずに行うことができる。また、海外の人に日本について紹介する際の表現を学ぶ 【授業内容】 Chapter 4～6 英語で日本食を説明する練習		
7	【到達目標】 前半の授業で学んだ問診をテキストを見ずに行うことができるようになる 【授業内容】 Chapter 3～5			15	【到達目標】 医療現場に必要な専門英単語を覚え、患者さんと英語でコミュニケーションを取ることが 【授業内容】 期末試験		
8	【到達目標】 前半の授業の内容の定着とSNSを利用して英語で発信 【授業内容】 中間試験と課題提出			【評価について】 毎回の小テストと中間試験で40点、筆記試験による定期試験60点を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	音声学Ⅰ PhoneticsⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	平野 祐紀
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	前期 月曜 3限
【実務経験】 言語聴覚士として総合病院、リハビリテーション病院、地域リハビリテーションに携わる。他、養成校で非常勤講師を務める。							
【授業の学習内容】 日本語の音声を中心に、音声を生成する仕組みや音声の特徴、それらに必要な知識について学ぶ。また、音声学の言語聴覚療法の活かし方を理解する。							
【到達目標】 音声を調音様式と調音点という視点でまとめ、表記方法を学ぶ。抑揚や調音結合など話しことばの変化にも注目する。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書:「言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学 第2版」医学書院 参考書:「ビジュアル音声学」三省堂、「たのしい音声学」くろしお出版				【授業外における学習】 ・予習と復習に力を入れる ・疑問を放置しない			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 音声学で学ぶ内容、発声発語器官の構造を理解する 【授業内容】 音声学の基礎、音声学とは何か			9	【到達目標】 副次調音を理解する 【授業内容】 国際音声記号⑥		
2	【到達目標】 母音と子音の構音、分節音を理解する 【授業内容】 構音とは、分節音・音素			10	【到達目標】 母音の分類・構音方法、母音のその他の分類を理解する 【授業内容】 国際音声記号⑦		
3	【到達目標】 二重分節、相補分布、条件異音、自由変音を理解する 【授業内容】 国際音声記号と分節音			11	【到達目標】 調音結合、同化を理解する 【授業内容】 調音結合、同化		
4	【到達目標】 子音(破裂音、鼻音など)の特徴を理解する 【授業内容】 国際音声記号①			12	【到達目標】 日本語の超分節的要素を理解する 【授業内容】 超分節的要素		
5	【到達目標】 子音(ふるえ音、はじき音、摩擦音など)の特徴を理解する 【授業内容】 国際音声記号②			13	【到達目標】 日本語の音声学的特徴、モーラと音節を理解する 【授業内容】 日本語音声学		
6	【到達目標】 子音(側面摩擦音、接近音、側面接近音など)の特徴を理解する 【授業内容】 国際音声記号③			14	【到達目標】 言語聴覚療法に音声学をどのように活かすかを理解する 【授業内容】 音声学と臨床		
7	【到達目標】 子音(破擦音など)の特徴を理解する 【授業内容】 国際音声記号④			15	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、音声学についての理解を定着させる 【授業内容】 定期試験、講義の振り返り		
8	【到達目標】 講義の前半の振り返りをし、知識を定着させる 有気音と無気音、非肺気流を理解する 【授業内容】 中間テスト、国際音声記号⑤			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴力検査法 I Hearing Test I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小林 穂
		授業 形態	演習	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 2 限
学科・コース 言語聴覚士科							
【教員実務経験】							
言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験あり。							
【授業の学習内容】							
病院、訪問業界で臨床経験を積んできた教員が、聴覚検査について理解が深められるように聴覚検査の検査法を習得できる授業を行う。具体的には、検査前の準備、検査法のイメージを抱けるように実場面の動画を豊富に活用して教授する。また聴覚検査内に取り扱う専門用語を適切に使用して説明できるようになることを目標とする。能動的							
【到達目標】							
聴力検査の種類、目的、検査方法や手順、結果の解釈が説明することができる。 純音聴力検査・語音聴力検査・自記オーディオメトリーの正しい方法を学び、実際に実施ができるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
【聴覚検査の実際 改定4版】南山堂				毎回、授業後に復習をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 伝音難聴難聴、感音難聴、混合難聴、心因性難聴の違いを説明できる 音の基礎知識を知ることができる 【授業内容】 各疾患の症状、経過、診断 純音、周波数、音圧、音圧レベル、聴野、ラウドネス、ピッチ、音色			9	【到達目標】 自記オーディオメトリーの検査方法、結果の解釈を説明することができる 補充現象、一過性閾値上昇を理解し説明することができる 【授業内容】 自記オーディオメトリーの演習		
2	【到達目標】 オーディオメーターの使い方を説明できる 聴力検査の種類を知り説明できる 【授業内容】 オーディオメーター保守点検整備 オーディオグラム			10	【到達目標】 語音聴力検査：語音了解閾値検査(SRT)の目的、方法、結果の解釈を説明することができる 【授業内容】 語音聴力検査とは、目的 語音了解閾値検査：スピーチオーディオグラム		
3	【到達目標】 気導聴力検査の準備、予備検査の提示、順序を説明ができる 気導聴力検査の本検査の提示、順序を説明ができる 【授業内容】 検査前の準備、検査法(予備検査・本検査) オーディオメーターを使用した演習			11	【到達目標】 語音聴力検査：語音了解閾値検査(SRT)の目的、方法、結果の解釈を説明することができる 【授業内容】 語音了解閾値検査：演習		
4	【到達目標】 気導聴力検査の準備、予備検査の提示、順序を説明ができる 気導聴力検査の本検査の提示、順序を説明ができる 【授業内容】 オーディオメーターを使用した演習			12	【到達目標】 語音聴力検査：語音弁別検査の目的、方法、結果の解釈を説明することができる 【授業内容】 語音弁別検査とは、目的と検査手順 語音弁別閾値検査：スピーチオーディオグラム		
5	【到達目標】 骨導聴力検査の提示、順序を説明できる 【授業内容】 オーディオメーターを使用した演習			13	【到達目標】 語音聴力検査：語音弁別検査の目的、方法、結果の解釈を説明することができる 【授業内容】 語音了解閾値検査：演習		
6	【到達目標】 マスキングに使用する用語、ノイズの種類と効果、必要な場合を説明することができる 【授業内容】 交叉聴取・両耳間移行減衰現象 オーバーマスキング・マスキングノイズ			14	【到達目標】 語音聴力検査：語音弁別検査の目的、方法、結果の解釈を説明することができる 【授業内容】 語音了解閾値検査：演習 語音弁別閾値検査：演習		
7	【到達目標】 自記オーディオメトリーの検査方法、結果の解釈を説明することができる 補充現象、一過性閾値上昇を理解し説明することができる 【授業内容】 自記オーディオメトリーの検査方法、Jerger分類と結果 補充現象、一過性閾値上昇の理解			15	【到達目標】 これまで学んだ呼聴力検査について改めて復習し理解を深める 中間試験、解説 聴力検査のまとめ 【授業内容】 定期テスト 定期テスト解答解説		
8	【到達目標】 これまでの学習の総復習を行い中間試験に挑む 【授業内容】 中間試験、解説 聴力検査のまとめ			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴覚系の構造・機能・病態 I Physical and Functional Diseases of the Auditory System I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	大田 智之	
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 木曜 3限	
学科・コース	言語聴覚士科							
【実務経験】 言語聴覚士として総合病院、リハビリテーション病院、地域リハビリテーションに携わる。他、養成校で非常勤講師を務める。								
【授業の学習内容】 聴覚系の構造や機能を理解し、病態が起きた場合の症状について理解する								
【到達目標】 聴器の解剖・生理学的知識、聴器に病態について学び、理解する。								
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学―聴覚障害学 第3版 医学書院					【授業外における学習】 ・予習と復習に力を入れる、教科書の該当箇所を熟読する ・疑問を放置しない			
回	授 業 概 要				回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 聴覚・聴覚障害についての基本的な知識を理解する 【授業内容】 音と聴覚/聴覚障害とは				9	【到達目標】 伝音性難聴の特徴と、その障害について理解する 【授業内容】 伝音性難聴		
2	【到達目標】 聴覚系の発達について理解する 【授業内容】 聴覚系の発生・発達①				10	【到達目標】 感音性難聴の特徴と、その障害について理解する 【授業内容】 感音性難聴(内耳性難聴)		
3	【到達目標】 聴覚系の発生、聴器の全体的な構造について理解する 【授業内容】 聴覚系の発生・発達② 聴覚系の構造と機能①				11	【到達目標】 蝸牛神経から大脳までの構造や働き、後迷路性難聴について理解する 【授業内容】 後迷路性難聴		
4	【到達目標】 外耳、中耳の構造・機能を理解する 【授業内容】 聴覚系の構造と機能②				12	【到達目標】 混合性、片耳、機能性難聴、その他の併発症状について理解する 【授業内容】 その他の難聴		
5	【到達目標】 内耳(聴覚)の構造・機能を理解する 【授業内容】 聴覚系の構造と機能③				13	【到達目標】 難聴を伴う疾患、遺伝子疾患や家族性難聴などを理解する 【授業内容】 難聴を伴う疾患		
6	【到達目標】 聴覚伝導路(聴覚路)の構造・機能を理解する 【授業内容】 聴覚系の構造と機能④				14	【到達目標】 構造や機能を理解した上で、難聴についてのまとめを行う 【授業内容】 聴覚系の構造機能のまとめと病態		
7	【到達目標】 内耳(平衡器)の構造・機能を理解する 【授業内容】 聴覚系の構造と機能⑤				15	【到達目標】 これまでの講義内容について振り返り、知識を定着させる 【授業内容】 定期テスト、総復習		
8	【到達目標】 前半の授業の振り返りをして、知識を定着させる 【授業内容】 中間テスト、前半の振り返り				【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】								

科目名 (英)	内科学 Internal Medicine	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小林 亜紀
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】							
病院では血液内科・循環器・消化器内科勤務経験、看護学校の教員経験あり。							
【授業の学習内容】							
日常耳にする疾患から入り、学生が卒業後出会う機会がある疾患を中心に分かりやすく伝えていく。症状や治療の詳細までを伝えるのではなく、各疾患のポイントと専門職として対応の際に注意したいポイントも含めて理解してもらえるように現場のケースなどを多く取り入れて進めていく。							
【到達目標】							
人体の構造と機能をふまえた上で病態を理解することで、医療職としてチームケアにあたることができる。また臨床検査値についても理解することで、臨床現場で患者・利用者と関わるときに異常の早期発見につなげることができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版(医学書院)							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 病態学とは何かがわかり、フィジカルアセスメントの重要性について理解する。 【授業内容】 病態・疾患学とは			9	【到達目標】 腎臓・尿路系疾患の病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 腎臓・尿路疾患		
2	【到達目標】 循環器の関連性についてイメージができ、主な循環器疾患の病態についてわかる。 【授業内容】 循環器疾患			10	【到達目標】 内分泌・代謝系の病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 内分泌・代謝疾患		
3	【到達目標】 循環器と呼吸器系の関連性について理解でき、呼吸器系の病態がわかる 【授業内容】 循環器疾患・呼吸器疾患			11	【到達目標】 膠原病やアレルギー系の病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 自己免疫・アレルギー疾患		
4	【到達目標】 呼吸器系の病態と症候、治療やかかわりかたについて理解できる 【授業内容】 呼吸器疾患			12	【到達目標】 血液系の病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 血液疾患		
5	【到達目標】 消化管の主な病態と症候、治療やかかわりかたについて理解できる 【授業内容】 消化管疾患			13	【到達目標】 神経・筋系の病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 神経・筋疾患		
6	【到達目標】 消化管の主な病態と症候、治療やかかわりかたについて理解できる 【授業内容】 消化管疾患			14	【到達目標】 内科学にかかわる臨床検査の基準値と異常値を理解できる 【授業内容】 臨床検査		
7	【到達目標】 肝臓・胆のう・膵臓病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 肝・胆・膵疾患			15	【到達目標】 内科学にかかわる臨床検査の基準値と異常値を理解できる 【授業内容】 臨床検査 定期試験		
8	【到達目標】 肝臓・胆のう・膵臓病態と症候、治療や関わり方について理解できる 【授業内容】 肝・胆・膵疾患			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	こども学 Child Education	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	森 静子
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後 期 火曜 3限
学科・コース	言語聴覚士科午前コース						
【実務経験】							
長年の保育所勤務を通し、現場と専門知識をつなぐ学びが重要と保育者養成に携わる							
【授業の学習内容】							
子どもの発達的特点を理解し、個々の子どもの発達状況を把握することができる							
乳幼児期に必要な援助や関わりの基本的な考え方について理解し、適切に接する方法を考えることができる							
【到達目標】							
子どもの発達的特点を理解し、個々の子どもの発達状況を把握する							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
教員の指示に従い準備をすること(色鉛筆・ハサミ・のり)							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 子ども学を学ぶ意義を理解し、こどもを子どもとして捉え学ぶ心構えができる 【授業内容】 子どもの発達を理解する姿勢を整える			9	【到達目標】 子どもを取り巻く制度と法律について知る 【授業内容】 子どもを取り巻く環境を知り、一人ひとりの健やかな育ちを支援していくための様々な制度や法律を知る		
2	【到達目標】 0歳児の発達、言葉を獲得するプロセスを知る 【授業内容】 子どもの誕生から始まる大人とのコミュニケーションについて理解し、非言語によるコミュニケーションの大切さを知る			10	【到達目標】 『保育所保育指針』における乳児保育のポイント① 【授業内容】 育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を知り、保育のねらい及び内容を年齢別にとらえる		
3	【到達目標】 1歳児の発達、愛着関係の形成、こころの育ちを知る 【授業内容】 離乳食、遊び、言葉でのコミュニケーションの始まりなど1歳児の発達段階を知る			11	【到達目標】 『保育所保育指針』における乳児保育のポイント② 【授業内容】 育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を知り、保育のねらい及び内容を年齢別にとらえる		
4	【到達目標】 2～3歳児の発達、言葉の発達と社会性の芽生えを理解する 【授業内容】 2～3歳児の世界を理解し、他者の気持ちに気付くために必要な経験を重ねる子どもについて理解する			12	【到達目標】 保育所で過ごす1日の流れ、乳幼児の生活と遊び 【授業内容】 保育所での1日の流れを知り、乳幼児の生活と遊びの基本的事項を知る		
5	【到達目標】 4歳児の発達、遊びを通して子どもは育つことを知る 【授業内容】 3～4歳児の発達を理解し、特徴的な遊びを知る			13	【到達目標】 子どもたちが「遊びこむ」ことを理解し、実際の製作・遊びを通して体験的理解を深める 【授業内容】 遊びにおいて心を動かされる豊かな体験とはどのようなものかを体験を通して		
6	【到達目標】 5歳児の発達、集団の中での子どもの心の育ち、遊びの大切さを知る 【授業内容】 5歳児の発達を理解し、自分をイメージしながら遊びこむ子どもの世界を理解する			14	【到達目標】 言葉以外の表現方法の大切さを知る 【授業内容】 非言語の関りの重要性を理解するとともに、子どもが表現する喜びを通じてどんな力が育つのかを理解する		
7	【到達目標】 子どもの発達とおもちゃについて理解する 【授業内容】 言語聴覚室内のおもちゃについてこどもの発達と照らしその楽しさを理解する			15	【到達目標】 定期テスト 【授業内容】 子ども学の総復習		
8	【到達目標】 子どもと絵本の世界、絵本と言葉の関係について 【授業内容】 絵本の基本的な知識・読み聞かせの意義と方法を知る			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会人教育 Society Education	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	奥山裕太、矢代のぞみ
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 集中講義
【実務経験】 医療系学校で勤務、医療系・工学系科目を中心に授業を実施、チームで課題解決能力を図る学習法を確立してきた教務経験を持つ。 多様な業種の人材マッチングを通じて、調整力と課題解決力を発揮し、円滑な就業支援体制の構築に携わってきた経験を持つ。							
【授業の学習内容】 卒業までに越えるべきハードル【臨床実習/国家試験/就職】、卒後の社会人生活を見越して、『7つの習慣』『実習の行動規範』の理解を図り、今後に向けての基礎形成を図る。 □ □							
【到達目標】 ・施設概要や多職種の業務内容を説明できる。 ・利用者や多職種とのコミュニケーション技法や、利用者の尊厳を考慮した関わり方を学ぶ。 ・見学研修を通じ、2年次からの臨床実習に向けて必要な能力を身に付ける。							
【使用教科書・教材・参考書】 特になし 配布資料				【授業外における学習】 見学施設までの交通手段を確認し、余裕をもった行動や、社会人としてのマナーを日頃から心がけておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 施設の概要や、施設見学の目的や内容を理解する。 社会人としての心構えを自覚し、マナーのある行動をとることができる。 【授業内容】 ・社会人教育の意義 ・社会人としてのマナー、接遇			9	【到達目標】 施設の概要や、施設見学の目的や内容を理解する。 社会人としての心構えを自覚し、マナーのある行動をとることができる。 【授業内容】 調べ学習 グループワーク		
2	【到達目標】 施設の概要や、施設見学の目的や内容を理解する。 社会人としての心構えを自覚し、マナーある行動をとることができる。 【授業内容】 ・社会人教育の意義 ・社会人としてのマナー、接遇			10	【到達目標】 施設の概要や、施設見学の目的や内容を理解する。 社会人としての心構えを自覚し、マナーある行動をとることができる。 【授業内容】 調べ学習 グループワーク		
3	【到達目標】 施設概要や多職種の業務内容を学ぶ。 利用者や施設職員とのコミュニケーションを通じ、適切な関わり方を学ぶ。 【授業内容】 調べ学習 グループワーク			11	【到達目標】 施設の概要や、施設見学の目的や内容を理解する。 社会人としての心構えを自覚し、マナーある行動をとることができる。 【授業内容】 調べ学習 グループワーク		
4	【到達目標】 施設概要や多職種の業務内容を学ぶ。 利用者や施設職員とのコミュニケーションを通じ、適切な関わり方を学ぶ。 【授業内容】 ・多職種連携について ・コミュニケーション方法			12	【到達目標】 施設概要や多職種の業務内容を学ぶ。 利用者や施設職員とのコミュニケーションを通じ、適切な関わり方を学ぶ。 【授業内容】 見学研修		
5	【到達目標】 施設概要や多職種の業務内容を学ぶ。 利用者や施設職員とのコミュニケーションを通じ、適切な関わり方を学ぶ。 【授業内容】 見学研修			13	【到達目標】 施設概要や多職種の業務内容を学ぶ。 利用者や施設職員とのコミュニケーションを通じ、適切な関わり方を学ぶ。 【授業内容】 見学研修		
6	【到達目標】 施設概要や多職種の業務内容を学ぶ。 利用者や施設職員とのコミュニケーションを通じ、適切な関わり方を学ぶ。 【授業内容】 見学研修			14	【到達目標】 見学研修で学んだことを、グループワークなどを通じて班ごとにまとめ発表できる。施設や病院での臨床実習に向けた心構えを身に付ける。 【授業内容】 見学研修		
7	【到達目標】 見学研修で学んだことを、グループワークなどを通じて班ごとにまとめ発表できる。施設や病院での臨床実習に向けた心構えを身に付ける。 【授業内容】 見学研修			15	【到達目標】 見学研修で学んだことを、グループワークなどを通じて班ごとにまとめ発表できる。施設や病院での臨床実習に向けた心構えを身に付ける。 【授業内容】 見学研修を通じて学んだことをグループワークで発表		
8	【到達目標】 見学研修で学んだことを、グループワークなどを通じて班ごとにまとめ発表できる。施設や病院での臨床実習に向けた心構えを身に付ける。 【授業内容】 見学研修を通じて学んだことをグループワークで発表			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】							

科目名 (英)	失語症 aphasia I	必修 選択	必修	年次	1年生	担当教員	小林 穰
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後 期 月曜 1,2限
【実務経験】 言語聴覚士として、病院(急性期・慢性期・回復期)、老人保健施設、訪問看護ステーション、クリニック(訪問リハビリ・通所)等で勤務経験をもつ。							
【授業の学習内容】 言語に関わる脳の構造や機能、失語症の言語症状や発生機序などを、実務経験を生かし、具体的でわかりやすく授業を行なう。本科目では、失語症における言語症状、原因となる疾患などを理解した上で、失語症のタイプ分類を学ぶ。また、実際の失語症検査、その他の検査を使用して、ロールプレイ形式で学びを深めていく。							
【到達目標】 ① 失語症の症状、原因疾患、基礎知識を学び、理解し、説明することができる。 ② 失語症候群の分類を学び、随伴しやすい障害を理解し、説明することができる。 ③ 失語症検査の概要を理解し、手順やまとめ方を学び、実施することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・「標準言語聴覚障害学 失語症学第3版」医学書院 ・配布資料 他				【授業外における学習】 専門用語について、事前学習をしておくこと。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 失語症の基礎的知識を理解する。失語症がどのような原因で出現するのか、原因となる疾患について説明することができる。 【授業内容】 ①失語症とは何か ②失語症の原因疾患			9	【到達目標】 交叉性失語・皮質下性失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ①失語症候群、交叉性失語・皮質下性失語の理解		
2	【到達目標】 失語症のタイプ分類や、メカニズムの推測に重要な言語症状、近縁症状、随伴しやすい障害を学び、説明することができる。 【授業内容】 ①失語症の症状 ②失語症のタイプ分類			10	【到達目標】 純粋型・原発性進行性失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ①失語症候群、純粋型・原発性進行性失語の理解		
3	【到達目標】 古典的分類におけるブローカ失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ① 失語症候群、ブローカ失語の理解			11	【到達目標】 失語症の評価・診断の原則、情報収集や鑑別、標準失語症検査の検査の概要を理解し、手順や採点法・まとめを修得し、実施することができる。 【授業内容】 ①失語症の評価・診断 ②原則・情報収集・鑑別診断		
4	【到達目標】 古典的分類におけるウェルニッケ失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ①失語症候群、ウェルニッケ失語の理解			12	【到達目標】 失語症の評価・診断の原則、情報収集や鑑別、標準失語症検査の検査の概要を理解し、手順や採点法・まとめを修得し、実施することができる。 【授業内容】 ①失語症の評価・診断 ②原則・情報収集・鑑別診断		
5	【到達目標】 古典的分類における伝導失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ① 失語症候群、伝導失語の理解			13	【到達目標】 失語症の評価・診断の原則、情報収集や鑑別、標準失語症検査の検査の概要を理解し、手順や採点法・まとめを修得し、実施することができる。 【授業内容】 ①失語症の評価・診断 ②原則・情報収集・鑑別診断		
6	【到達目標】 古典的分類における健忘失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ①失語症候群、健忘失語の理解			14	【到達目標】 失語症の評価・診断の原則、情報収集や鑑別、標準失語症検査の検査の概要を理解し、手順や採点法・まとめを修得し、実施することができる。 【授業内容】 ①失語症の評価・診断 ②原則・情報収集・鑑別診断		
7	【到達目標】 古典的分類における超皮質性失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを理解する。 【授業内容】 ①失語症候群、超皮質性失語の理解			15	【到達目標】 失語症の基礎的な知識、タイプ分類を理解し、適切な評価・診断ができる。総合的な理解を確認する。 【授業内容】 ①失語症の評価・診断のまとめ ②定期試験		
8	【到達目標】 古典的分類における超皮質性失語・全失語について学び、基本概念、症状、病巣、随伴しやすい症状などを説明することができる。 【授業内容】 ①失語症候群、超皮質性失語、全失語の理解 ②中間テスト			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	生涯発達心理学Ⅰ Life-long Developmental PsychologyⅠ	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	田島 葵
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 1・2限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】 公認心理師として、発達障害児への個別療育やソーシャルスキルトレーニング、保護者への相談支援、スクールカウンセラー等の心理的支援に携わっている							
【授業の学習内容】 本科目を通じて、臨床実践にかかわる生涯発達心理学の理論について、体系的に学習する。 また、内省やグループワークの機会を設ける中で、一人ひとりが自己理解と他者理解を深化させ、臨床場面での素養を醸成してほしい。							
【到達目標】 新生児期から老年期における心理機能の仕組みや発達を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学 第2版 医歯薬出版				【授業外における学習】 心理学の専門的用語がでくるので、予め教科書を読み、予習をしてくること。分からない用語は、ネット検索を用いてもよい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 発達の規定要因を説明できる。 【授業内容】 オリエンテーション、発達の概念			9	【到達目標】 自我同一性の確立を説明できる。 【授業内容】 青年期		
2	【到達目標】 発達研究法、発達理論を説明できる。 【授業内容】 発達の概念			10	【到達目標】 知的機能の発達を説明できる。 【授業内容】 青年期		
3	【到達目標】 知覚・認知の発達を説明できる。 【授業内容】 新生児期・乳児期			11	【到達目標】 職業生活、家族生活を説明できる。 【授業内容】 成人期・老年期		
4	【到達目標】 運動の発達を説明できる。 【授業内容】 新生児期・乳児期			12	【到達目標】 加齢を説明できる。 【授業内容】 成人期・老年期		
5	【到達目標】 愛着と社会性の発達を説明できる。 【授業内容】 新生児期・乳児期			13	【到達目標】 知的機能を説明できる。 【授業内容】 成人期・老年期		
6	【到達目標】 遊びと認知機能の発達を説明できる。 【授業内容】 幼児期・児童期			14	【到達目標】 死への対応を説明できる。 【授業内容】 成人期・老年期		
7	【到達目標】 自己・他者認知の発達と仲間関係、保育・学校教育と発達を説明できる。 【授業内容】 幼児期・児童期			15	【到達目標】 定期試験でおさらいをし、生涯発達心理学の理解を深める。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 中間試験でおさらいをし、生涯発達心理学の理解を深める。 親子関係・友人関係を説明できる。 【授業内容】 中間試験、青年期			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】 板書したこと等は必ずメモをとること。							

科目名 (英)	臨床心理学Ⅰ Clinical PsychologyⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	稲永・長江	
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 1限	
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)								
公認心理師として、発達障害児への個別療育や集団療育、保護者への相談支援								
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)								
本科目を通じて、臨床実践にかかわる心理学の理論について、体系的に学習する。 内省やグループワークの機会を設ける中で、ひとりひとりが自己理解と他者理解を深化させ、臨床場面での素養を醸成してほしい。								
【到達目標】								
心の特性や疾患、支援に役立つ理論について説明できる。								
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学 第2版 医歯薬出版					【授業外における学習】 心理学の専門的用語が出てくるので、予め教科書を読み、予習をしてくること。わからない用語は、ネット検索を用いてもよい。			
回	授 業 概 要				回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 類型論を説明できる。 【授業内容】 オリエンテーション、パーソナリティ理論				9	【到達目標】 知能検査を説明できる。 【授業内容】 臨床心理学的アセスメント		
2	【到達目標】 特性論を説明できる。 【授業内容】 パーソナリティ理論				10	【到達目標】 知能検査を説明できる。 【授業内容】 臨床心理学的アセスメント		
3	【到達目標】 発達障害を説明できる。 【授業内容】 発達各期における心理臨床				11	【到達目標】 パーソナリティ検査、面接、行動観察を説明できる。 【授業内容】 臨床心理学的アセスメント		
4	【到達目標】 不登校、引きこもり、摂食障害、自我同一性の障害を説明できる。 【授業内容】 発達各期における心理臨床				12	【到達目標】 クライアント中心療法、精神分析療法、遊戯療法を説明できる。 【授業内容】 心理療法		
5	【到達目標】 精神分析、気分障害、統合失調症を説明できる。 【授業内容】 異常心理				13	【到達目標】 行動療法、認知療法を説明できる。 【授業内容】 心理療法		
6	【到達目標】 心的外傷及びストレス因関連障害、パーソナリティ障害、不安症、強迫症を説明できる。 【授業内容】 異常心理				14	【到達目標】 集団心理療法、家族療法を説明できる。 【授業内容】 心理療法		
7	【到達目標】 心身症、意識の障害、診断基準・国際的疾患分類(DSM・ICD)を説明できる。 【授業内容】 異常心理				15	【到達目標】 定期試験で復習し、臨床心理学の理解を深める。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 中間試験で復習し、臨床心理学の理解を深める。 【授業内容】 中間試験				【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】								

科目名 (英)	呼吸発声発語系の構造・機能・病態 I Physical and Functional Diseases of the Respiratory System I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	清水 宗平
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 1・2 限
学科・コース	言語聴覚士科						
【教員実務経験】 さがみリハビリテーション病院、横浜鶴見リハビリテーション病院、首都医校非常勤講師、(社)神奈川県言語聴覚士会理事							
【授業の学習内容】 病院、訪問業界で呼吸発声発語の臨床経験を積んできた教員が、呼吸・発声・発語の構造、機能について理解を深められるように、解剖生理学的知識を習得する授業を行う。具体的には、解剖生理学のイメージを抱けるように実際の言語聴覚療法の画像や音声を活用する。また言語聴覚士として専門用語を適切に使用して説明できることを目標とする。また、並行して行われる発声発語障害領域や音声学といった授業の内容とリンクできるよう伝達する。							
【到達目標】 呼吸、発声、発語の解剖学的構造と生理学的機能を図と対比させて、説明ができる。 呼吸機能障害、音声障害、構音障害を説明するための解剖、生理学的な専門知識を取得し、病態を説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 医学書院 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学第4版 監修:城本修、編集:原由紀・小澤由嗣				【授業外における学習】 毎回、授業後に復習をすること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 発声発語器官の基本構造を理解し、説明できる 発声発語障害を大まかに理解できる 【授業内容】 発声発語器官(気道)の大まかな構造と機能 発声発語器官に関連する大まかな病態			9	【到達目標】 発声発語器官に関連する神経系を理解し、説明できる 音声の産生と知覚を理解し、説明できる 【授業内容】 発声発語器官に関与する神経系の基本構造、機能 音声の産生と知覚		
2	【到達目標】 呼吸器系の基本構造と機能を理解し、説明できる 【授業内容】 呼吸器系の基本構造と機能(気道・胸郭・呼吸筋) 呼吸運動の仕組み、吸気と呼気の作用とメカニズム			10	【到達目標】 日本語の音韻・構音と音声知覚を理解し説明できる 【授業内容】 日本語の音韻 音韻と音声、言語の単位、日本語の音素、韻律、構音		
3	【到達目標】 呼吸発声発語器官の主な検査について理解する 肺気量分画と呼吸調整を理解し、説明できる 【授業内容】 全肺気量、深吸気量、機能的残気量、一回換気量、一秒率、受動的復位			11	【到達目標】 音声障害と疾患(病態)を知り説明できる。 嚁声を実際に聞きGRBAS尺度で評価できる 【授業内容】 GRBAS尺度の聴覚的印象 音声障害の病態、分類と疾患		
4	【到達目標】 呼吸器系に関連する疾患・病態を理解し、説明できる 【授業内容】 肺気量からみた呼吸器疾患の分類 肺炎、閉塞性・拘束性肺疾患、肺腫瘍等			12	【到達目標】 構音障害と疾患(病態)について説明できる 【授業内容】 構音障害の症状、構音の異常、鼻咽腔共鳴の異常 構音障害の病態		
5	【到達目標】 喉頭の基本構造と機能を理解し、説明できる 内喉頭筋の機能と支配神経理解し、説明できる 【授業内容】 喉頭の基本構造・生理的機能(呼吸・発声・嚥下) 喉頭筋の分類(内・外喉頭筋) 内喉頭筋の種類・機能・支配神経			13	【到達目標】 運動障害性構音障害と疾患(病態)について説明できる 【授業内容】 運動障害性構音障害		
6	【到達目標】 外喉頭筋の機能と支配神経を理解し、説明できる 喉頭に関連する病態を理解し、説明できる 【授業内容】 外喉頭筋の種類・機能・支配神経 基本的な喉頭の検査 喉頭の病態と医学的診断			14	【到達目標】 機能性構音障害と疾患(病態)について説明できる 【授業内容】 機能性構音障害		
7	【到達目標】 発声発語器官の付属器官の基本構造を理解し、説明できる 【授業内容】 鼻腔・咽頭・口腔の基本構造と機能 各器官に関連する筋の種類・機能・支配神経			15	【到達目標】 これまで学んだ呼吸発声発語の構造、機能、病態について改めて復習し 理解を深める 【授業内容】 定期テスト 定期テストの解答解説		
8	【到達目標】 呼吸器官・喉頭・付属器官について復習し、中間テストに挑む 【授業内容】 呼吸器官、喉頭、付属器官について復習 中間テスト、中間テストの解答、解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	病理学 Pathology	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	國分克寿
		授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 1, 2限
学科・コース	言語聴覚士科AM						
【実務経験】 口腔病理専門医として大学へ勤務。歯科医師として教員を務める。							
【授業の学習内容】 基本的な病変、疾病の成り立ちについて学び、症状を有する方について理解を深める。							
【到達目標】 様々な病気について、原因や病態の進展機序を学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的な仕組み 改定2版4刷、 小林正伸、南山堂				【授業外における学習】 ・復習に力を入れ、専門用語と内容をしっかり結びつける。 ・疑問を放置しない。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 病理学とは何か、主な病変や疾病の成り立ちについて理解する。 遺伝とは何か、先天異常により起こる疾患を知る。 【授業内容】 病理学とは何か／疾病の原因(内因と外因) 遺伝と先天異常			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 変性、萎縮、壊死を理解する。 【授業内容】 退行性病変			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 組織の修復を理解する。 【授業内容】 進行性病変			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 充血、うっ血、血栓形成、塞栓や梗塞などの疾患を知る。 【授業内容】 循環障害			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 炎症とは何かを理解する。 【授業内容】 炎 症			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 免疫とは何かを理解する。 【授業内容】 免疫と免疫異常			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 腫瘍とは何かを理解する。 【授業内容】 腫 瘍			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 これまでの振り返りを通して、理解を深め、知識を定着させる。 【授業内容】 定期試験、講義全体の振り返り			【評価について】 定期試験65点、毎回の小テスト35点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	社会福祉概論 Introduction to Social Welfare	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	高木 亮
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 1限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】							
障害者施設にて生活指導員を3年間経験							
【授業の学習内容】							
福祉の現場で勤務した経験、現在医療機関にて、医療ソーシャルワーカーと共に仕事をする機会から得た経験、地域リハビリテーションにて、保険、福祉の現場にてソーシャルワーカーと仕事をした経験をもとに、将来言語聴覚士となったさい最低限知っておくべき社会福祉の知識を、自身の体験談も踏まえてより実践をイメージできるような授業を展開していく。							
【到達目標】							
①言語聴覚士が医療・保健・福祉の領域の中で職務を行う上で基礎となる「社会福祉」の知識を習得することができる ②言語聴覚士が関わる、「社会福祉」の領域の多職種・福祉に係る法令・システムを理解することができる ③3年後の国家試験に向けて、社会福祉概論に関する領域の知識を深めることができる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
教科書・参考書は特になし 教材は授業前に配布します							
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 リハビリテーションとは何かを大まかに説明できる 【授業内容】 社会福祉とは何か 日本の社会福祉の歴史を振り返ろう			9	【到達目標】 中間試験 【授業内容】 ケアプランを作ってみよう		
2	【到達目標】 社会保障制度と社会福祉を展開する組織を理解できる 【授業内容】 社会保障制度の大まかな把握ができること 今後の課題について認識できること			10	【到達目標】 「医療福祉」について知ろう 【授業内容】 医療保険制度の概要 保険診療のしくみ		
3	【到達目標】 「子ども福祉」について知ろう 【授業内容】 子ども福祉」に関わる周辺情報を理解することができる			11	【到達目標】 医療ソーシャルワーカーと多職種連携について知ろう 【授業内容】 「事例」を通して医療ソーシャルワーカーの業務の疑似体験をしてみよう		
4	【到達目標】 「障害者福祉」について知ろう 【授業内容】 障害者福祉に関わる全体像を理解できる			12	【到達目標】 「精神保健福祉」について知ろう 【授業内容】 精神障害者とは 精神障害者を取り巻く環境		
5	【到達目標】 「高齢者福祉」について知ろう 【授業内容】 高齢者福祉に関わる法制度について過去の流れを知り、現状を理解できる。			13	【到達目標】 相談援助の目的と方法について学ぼう 【授業内容】 社会福祉における相談援助の目的と対象 社会福祉における相談援助者の基本的態度		
6	【到達目標】 介護保険制度について理解できる 【授業内容】 介護保険を知り、対象者にどのようなサービスが提供されるかを理解する			14	【到達目標】 社会福祉を巡る課題とコメディカルに期待される役割 【授業内容】 社会福祉に関する諸問題の例 保健医療従事者に期待されるおもな役割		
7	【到達目標】 「低所得者福祉」について知ろう 【授業内容】 本邦の低所得者対策について学び、現状を知ることが出来る			15	【到達目標】 期末試験 【授業内容】 テスト実施 振り返り		
8	【到達目標】 地域福祉とその推進法について学ぼう 【授業内容】 地域福祉とは 地域福祉の推進組織と担い手			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							

科目名 (英)	摂食嚥下障害概論 Swallowing Disorders Introduction	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	大橋三広	
		授業 形態	講義	総単位 時間	22.5	開講区分 曜日・時間	後期 水曜 2限	
学科・コース	1年生AM							
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)								
急性期からターミナルまで病院・施設・在宅と摂食嚥下に携わりトータル18年の経								
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)								
摂食嚥下に関わる解剖の基礎を抑えつつ、障害の特徴や治療方針とリンクして考えられるように伝えていく。機能面だけでなく背景因子をも踏まえた摂食嚥下の方針の立て方を紹介。手技的な事柄に関しては実技形式で実施予定。『食べる』ことを支えることが人としていかに大事であるかを感じとれるよう伝えていく。								
【到達目標】								
摂食嚥下の仕組みと解剖について説明できる。脳血管疾患やオーラルフレイルなどそれぞれの摂食嚥下障害の特性について説明できる。 障害に対する訓練プログラム立案についてイメージが立てられる。 食を支えることと人の尊厳について考えを持てるようになる。								
【使用教科書・教材・参考書】					【授業外における学習】			
・見える！わかる！摂食嚥下のすべて 改定第2版 ・医学書院 摂食嚥下障害学 第2版								
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要			
1	【到達目標】 摂食嚥下の事例を通して患者の立場にたって考え、STがいかに責任のある立場であるか、尊い仕事をしているかのイメージできる 【授業内容】 事例紹介・摂食嚥下障害当事者の悩みを知る。リハビリのbefore,afterの記録を見てSTの仕事に対してイメージを膨らませる			9	【到達目標】 嚥下前・中・後誤嚥の評価ポイントがイメージできる 【授業内容】 誤嚥と食事場面時の評価、観察ポイント			
2	【到達目標】 5期モデルの大まかな流れを知る。認知期では視覚情報や嗅覚情報などあらゆる感覚が味覚と関わりがあるなど体験を通して知る。 【授業内容】 摂食嚥下の流れ・5期モデルについて。『認知期』での観察ポイント、評価のポイント。味覚と視覚情報(体験型)			10	【到達目標】 動画視聴しどのような検査を行うか、何が疑われるかイメージがつけられるようにする 【授業内容】 グループワーク(摂食嚥下ケースの動画を見て)			
3	【到達目標】 摂食嚥下障害ケースで提供される食形態が説明でき、評価すべき項目がイメージできる。 【授業内容】 『認知期』でのポイント復習。『準備期』『口腔期』について食形態の評価ポイントについて			11	【到達目標】 摂食嚥下ケースの動画をみて、どんな訓練方法を行うかイメージが出来るようにする 【授業内容】 グループワーク(摂食嚥下ケースの訓練プログラム立案)			
4	【到達目標】 摂食嚥下にまつわる筋と神経についてその働きを説明できる。食塊形成や嚥下圧を高めるために使われる部位について説明ができる 【授業内容】 準備期・口腔期・咽頭期の筋とその解剖。各部位の役割集積と駆出力について			12	【到達目標】 小児の口腔に関する正常発達と特徴について説明できる 【授業内容】 小児分野での摂食嚥下と障害			
5	【到達目標】 各種評価についてスクリーニングの流れがイメージできる。トロミをなぜつけるか理由が説明できる 【授業内容】 スクリーニング検査について液体の嚥下とトロミ			13	【到達目標】 摂食嚥下に関する各種手術法と目的。適応について説明できる。 【授業内容】 気管切開や胃ろう 器質的な摂食嚥下障害について			
6	【到達目標】 食道期について説明ができる 摂食嚥下障害を呈する疾患やその障害像について説明できる 【授業内容】 食道期の説明。摂食嚥下障害① オーラルフレイル、脳血管疾患、神経変性疾患など			14	【到達目標】 これまでの講義内容の総復習と定期試験の準備 【授業内容】 定期試験範囲の確認。ポイントの総おさらい			
7	【到達目標】 摂食嚥下障害を呈する疾患やその障害像について説明できる 【授業内容】 摂食嚥下障害② オーラルフレイル、脳血管疾患、神経変性疾患など。事例紹介より			15	【到達目標】 これまでの講義内容の総復習 【授業内容】 定期試験			
8	【到達目標】 誤嚥とはなにか、誤嚥性肺炎とはなにかが説明できる。肺炎の所見ポイントなどがイメージできる 【授業内容】 誤嚥と誤嚥性肺炎の関係、対処法について			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価				
【特記事項】								

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅰ Diagnosis of Speech and hearing DisabilitiesⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小林凌
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 月曜 2,3限
【実務経験】 訪問リハビリ7年、言葉の教室開設、臨床3年							
【授業の学習内容】 小児の障害児通園施設で、言語発達障害児に対して言語聴覚療法を実践してきた教員の経験を生かして、分かりやすい質疑を実施し知識の理解を深める。また、実習機関のスーパーバイザーとしての実績を生かして、小児実習に必要な知識を講義する。さらに、言語発達障害児の評価・言語病理学的診断に必要な検査法をビデオや実際の検査用具を使用し、実践的な理解を目指す。							
【到達目標】 ・定形発達を理解することにより、言語発達障害児に対する行動評価を行う事が出来る。 ・言語病理学的診断に必要な言語発達検査・知能検査の実施方法・結果の解釈を演習形式で学び理解を深める。 ・小児学内実習に向けて必要な知識を学び、スムーズに実習を行う事が出来るようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「言語聴覚士のための臨床実習テキスト(小児編)」 建帛社 「言語聴覚診断—小児編」 医学と看護社 ・各検査マニュアル ・配布資料				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので、予習復習を行う事。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 言語発達障害の概要と支援の場にあった評価の目的や発達段階による評価の目的について学び、説明できる。 【授業内容】 言語発達障害とは 言語発達障害の評価の目的について			9	【到達目標】 WISC-Ⅳ知能検査の下位検査の評価点・指標得点・全検査IQ(FSIQ)の算出方法を学び、実施することができる。 【授業内容】 下位検査の評価点・指標得点・全検査IQ(FSIQ)の算出方法の演習		
2	【到達目標】 S-S法の動画を見て、実施方法を理解する。またマニュアルから概要・一般的な実施手順について理解し、説明出来る。 【授業内容】 S-S法の概要・実施手順。言語行動の3側面(「基礎的プロセス」「記号形式—指示内容関係」「コミュニケーション態度」)について			10	【到達目標】 WISC-Ⅳ知能検査の障害特性による結果の現れ方を学び、結果の考察ができる。中間テスト。 【授業内容】 障害別に現れやすい指標ごとの差について。 中間テスト		
3	【到達目標】 S-S法の段階2・3についての実施方法を学び、実施する事ができる。 【授業内容】 段階2・3についての実施手順の確認と演習。			11	【到達目標】 絵画語い発達検査(PVT-R)と質問-応答関係検査について、概要と目的を学び、説明できる。また、グループで検査を実施することができる。 【授業内容】 絵画語い発達検査(PVT-R)と質問-応答関係検査の演習。		
4	【到達目標】 S-S法の段階4・5についての実施方法を学び、実施する事ができる。 【授業内容】 段階4・5についての実施手順の確認と演習。			12	【到達目標】 対症児の情報収集の目的と、基礎情報・現症に関する情報等で収集する情報について学び、説明できる。 【授業内容】 レポートをまとめる際の情報収集の仕方や項目について。 基礎情報の概要について。		
5	【到達目標】 S-S法のサマリーへの記入方法を学び、記入する事ができる。また、検査結果と評価のまとめの記入方法を学び、実施出来る。 【授業内容】 検査結果の記入の仕方。(結果の記録・まとめ)			13	【到達目標】 ケースレポートの意義・記載すべき内容と留意点を理解する。また、ケースレポートの例を参考に、まとめ方を学ぶ。 【授業内容】 例から報告書のまとめ方のポイント・記載内容・記載時の留意点について		
6	【到達目標】 WISC-Ⅳ知能検査の概要・目的を理解し、説明出来る。 【授業内容】 WISC-Ⅳ知能検査の概要・目的について 適応年齢と測定できる項目と概要について。			14	【到達目標】 ケースレポートの意義・記載すべき内容と留意点を理解する。また、ケースレポートの例を参考に、まとめ方を学ぶ。 【授業内容】 例から報告書のまとめ方のポイント・記載内容・記載時の留意点について		
7	【到達目標】 言語理解指標(VCI)の下位検査とワーキングメモリー指標(WMI)の下位検査について、実施方法と結果の記入方法を学び、実施できる。 【授業内容】 VCIの下位検査(類似・単語・理解・知識・語の推理) WMIの下位検査(数唱・語音整列・算数)の演習			15	【到達目標】 講義内容についての定期試験を実施し、知識の定着を図る。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 知覚推理指標(PRI)の下位検査(積木模様・絵の概念・行列推理・絵の完成)と処理速度指標(PSI)の下位検査(符号・記号探し・絵の抹消)について、実施方法と結果の記入方法を学び、実施することができる。 【授業内容】 PRIの下位検査(積木模様・絵の概念・行列推理・絵の完成) PSIの下位検査(符号・記号探し・絵の抹消)の演習			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	運動障害性構音障害 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山崎 勇太
	dysarthria I	授業 形態	講義・演習	総単位 時間	30	開講区分	後期
学科・コース	言語聴覚士科 午前コース 3年制					曜日・時間	月曜 1 限
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験)							
言語聴覚士、公認心理師として生活期で訪問リハビリテーション、外来リハビリテーション、言語ディケア、言語デイサービス、介護老人保健施設での臨床経験を持つ							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか)							
運動障害性構音障害の評価訓練、支援を行ってきた現役の言語聴覚士が理論と実技について、現場の実情を交えつつ講義を行います。また運動障害性構音障害につながる解剖学、生理学、病理学、臨床神経学、音声学、発声発語器官の機能構造病態、神経系の機能構造病態の復習を行いつつ講義を行います。臨床科目として基礎科目での理解度が大きく必要になる科目なので、今までの講義の見返しを行いつつ授業に臨んで下さい。							
【到達目標】							
運動障害性構音障害の定義が口頭で説明できる。運動障害性構音障害の症状とタイプを表を見て理解できる。運動障害性構音障害の検査方法を理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
「ディサースリア 臨床標準テキスト」(医歯薬出版)標準言語聴覚障害学「発声発語障害学 第三版」(医学書院) プリント配布				上記、他科目の講義の資料を読み返して復習を行ってください			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 運動障害性構音障害の5つの要素を説明できる。言語障害としての運動障害性構音障害の位置づけを理解できる 【授業内容】 運動障害性構音障害の定義(分類、疫学など)、発声発語の5つの要素、運動障害性構音障害と失語症の鑑別について			9	【到達目標】 標準ディサースリア検査の手順と適応が理解できる 【授業内容】 AMSDの用具や構成について。発話明瞭度、発話自然度、発話特徴、発話速度について		
2	【到達目標】 運動障害、呼吸・発声障害、鼻咽腔閉鎖機能障害で起こる症状を理解できる 【授業内容】 運動障害とはなにか 麻痺、失調、固縮、拘縮について。呼吸・発声機能障害、鼻咽腔閉鎖機能不全で起こる症状と発話特徴。			10	【到達目標】 標準ディサースリア検査の手順と適応が理解できる 【授業内容】 AMSD 発声発語器官「呼吸、発声」について		
3	【到達目標】 プロソディ障害、構音機能障害で起こる症状を理解できる 【授業内容】 日本語に使用される構音方法、構音点について。運動障害で起こる構音障害の症状について。プロソディ機能障害の症状について			11	【到達目標】 標準ディサースリア検査の手順と適応が理解できる 【授業内容】 AMSD 発声発語器官「鼻咽腔閉鎖機能、口腔構音運動・単発運動」について		
4	【到達目標】 運動障害性構音障害の痙性 弛緩性 UUMN 運動低下、タイプの発話特徴と原因疾患の理解ができる 【授業内容】 痙性 弛緩性 UUMN 運動低下タイプの特徴について			12	【到達目標】 標準ディサースリア検査の手順と適応が理解できる 【授業内容】 AMSD 発声発語器官「口腔構音器官・交互反復運動・筋力」について。結果のまとめ方について		
5	【到達目標】 運動障害性構音障害の運動過多 失調性 混合性タイプの発話特徴と原因疾患の理解ができる 【授業内容】 運動過多 失調性 混合性タイプの特徴について			13	【到達目標】 実際の症例の情報を元に、タイプを予想し発話特徴を含めて総合的なタイプ分類ができる。 【授業内容】 症例の基本情報と発話特徴からタイプ分類を実際に行う		
6	【到達目標】 新版・構音検査の方法と手順が理解できる。機械を用いた検査、発話特徴抽出検査の理解ができる 【授業内容】 運動障害性構音障害の検査とはなにか。新版・構音検査、発話特徴抽出検査、機器を用いた検査について			14	【到達目標】 実際の症例の情報を元に、タイプを予想し発話特徴を含めて総合的なタイプ分類ができる。 【授業内容】 症例の基本情報と発話特徴からタイプ分類を実際に行う		
7	【到達目標】 構音障害のスクリーニングについて実際の手順を理解して実施できる 【授業内容】 構音障害のスクリーニングを実施			15	【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する 【授業内容】 定期試験・実施		
8	【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する。ここまでの復習を行う 【授業内容】 中間試験・実施			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価			
【特記事項】							
教科書では国家試験、臨床に必要な知識、技術の取得が難しいため、プリントや資料中心で行います。教科書は参考書として使用して下さい。							

科目名 (英)	English I	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	岩淵美嘉
	英語 II						
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後 期 木曜日 2限(3限)
【実務経験】 医療専門職として病院、クリニックで実務を経験し、米国滞在後は英語教師として医療系専門学校で20年以上英語教育に携わってきた。							
【到達目標】 大学で英米文学を専攻、その後視能訓練士免許を取得、医療現場で実務に携わった経験のある教員が、医療現場に必要な英単語、さまざまな場面での英語表現を教える。外国人の増加に伴い、医療現場でも国際共通語である英語でのコミュニケーションの必要性は高まっている。また海外研修に向けて、ホテルやレストランで積極的に英語でコミュニケーションを取ることができるよう準備する。授業では学生同士ペアで英会話の練習をする。							
【到達目標】 医療現場に必要な専門英単語を覚え、患者さんと英語でコミュニケーションが取れるようになる							
【使用教科書・教材・参考書】 医療英語コミュニケーション				【授業外における学習】 毎回、前の授業で学んだ医学英語の単語テストを行うため、復習して備えること。			
回	授 業 概 要				授 業 概 要		
1	【到達目標】 診療科の名称と道案内する際の表現を学び、病院内の案内ができるようになる 【授業内容】 Chapter 2 病院案内			9	【到達目標】 海外研修に備えて、お店で買い物する際に必要な英単語を覚え、それぞれの場面での英語表現を習得する 【授業内容】 買い物の場面の会話練習と聴覚に関する英単語		
2	【到達目標】 病院で働く医療職の名称を覚え、病院内の案内、さらに地域の道案内ができるようになる 【授業内容】 Chapter 2 病院案内 & Chapter 1 医療職の名称			10	【到達目標】 海外の様々な場面において英語でコミュニケーションをとることができる 会計で使用する英単語を学び、次回の予約を確認することができる 【授業内容】 海外研修出発前の会話の総復習 Chapter 16 会計		
3	【到達目標】 海外研修に備えて、空港や機内で目にする英単語を学び、機内での会話を習得する 【授業内容】 空港や機内での会話練習			11	【到達目標】 救急場面での英単語や表現を習得する 【授業内容】 Chapter 11 救急患者		
4	【到達目標】 患者さんにさまざまな依頼や指示をする際の英語表現を習得する 【授業内容】 Chapter 7 内科(1)			12	【到達目標】 カルテで使用される英語を学ぶ 【授業内容】 Chapter 18 カルテ		
5	【到達目標】 海外研修に備えて、ホテルで目にする英単語を覚え、それぞれの場面で必要な英語表現を習得する 【授業内容】 ホテルでの会話練習			13	【到達目標】 前期に学んだ症状や病名の英単語、問診の英語表現を確実に覚える 【授業内容】 Chapter 4 & 5		
6	【到達目標】 バイタルサインに関する英単語を覚え、体温や血圧を測定する際の表現を習得する 【授業内容】 Chapter 8 内科(2) バイタルサイン			14	【到達目標】 一年間に学んだ問診や検査・処置の際の英語を確実に表現できるようになる 【授業内容】 Chapter 1～18 総復習		
7	【到達目標】 検査や処置の際の英語表現を習得する 呼吸に関する英単語を覚える 【授業内容】 Chapter 10 検査と処置 & 呼吸器系の解剖			15	【到達目標】 医療現場に必要な専門英単語を覚え、患者さんと英語でコミュニケーションが取れるようになる 【授業内容】 期末試験		
8	【到達目標】 前半の授業の内容の定着 【授業内容】 中間試験 & 自己紹介の練習(誕生日と星座)			【評価について】 毎回の小テストと中間試験で40点、筆記試験による定期試験60点を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	高次脳機能障害学Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	中村 勇輝
	Higer Brain DysfunctionⅠ	授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分	後期
学科・コース						曜日・時間	木曜 1・2 限
【実務経験】							
言語聴覚士として、生活期の言語サービスや外来リハビリテーションでの経験を持つ。現在も現場で臨床を行っている。							
【授業の学習内容】							
生活期の言語サービス、外来リハビリにて言語症状や高次脳機能障害者の評価、リハビリ、復職支援を現役で実施している教員が、臨床経験を活かして講義と演習を行う。高次脳機能障害にかかわる脳の構造や機能を知り、高次脳機能障害の症状の基礎、評価方法を指導する。臨床の現場での高次脳機能障害の実例の紹介も交えながら講義を行う。							
【到達目標】							
高次脳機能障害の症状を理解し、自身の言葉で説明できる。 高次脳機能障害の検査手続きを実施できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版」医学書院				講義範囲での復習をし、理解ができない部分は質問をして下さい。□ □			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 高次脳機能障害による問題や、生活上の困難さを説明できる 高次脳機能障害の定義、原因疾患、疾患による症状を説明できる 【授業内容】 高次脳機能障害の実例紹介 高次脳機能障害の定義、原因疾患、疾患			9	【到達目標】 前頭葉の構造と機能、損傷による主要な高次脳機能障害を説明できる 【授業内容】 前頭葉の構造と機能、前頭葉損傷による主要な高次脳機能障害		
2	【到達目標】 半側空間無視の定義、症状、病巣を説明できる 半側空間無視の評価、リハビリテーションの方法を説明できる 【授業内容】 視空間障害における半側空間無視 グループ演習課題			10	【到達目標】 前頭葉損傷による注意機能障害、遂行機能障害、感情失禁、保続の症状、病巣、発症メカニズムを説明できる 【授業内容】 前頭葉損傷による注意障害、遂行機能障害、感情失禁、保続 グループ演習課題		
3	【到達目標】 地誌的見当識障害・パリント症候群・構成障害の定義、症状、病巣、評価、リハビリテーションの方法を説明できる 【授業内容】 視空間障害における地誌的見当識障害、パリント症候群、構成障害 グループ演習課題			11	【到達目標】 前頭葉機能障害の評価、診断、リハビリテーションの方法を説明できる 【授業内容】 前頭葉機能障害の評価とリハビリテーション		
4	【到達目標】 記憶の分類を説明できる 【授業内容】 記憶の基本概念と分類 グループ演習課題			12	【到達目標】 認知症の基本概念、診断基準、症状、薬物療法の概要を説明できる 【授業内容】 正常な加齢と認知症による社会生活水準の低下、認知症の基本概念と分類、薬物療法の概要		
5	【到達目標】 記憶障害の原因疾患、症状を説明できる 【授業内容】 記憶障害の原因疾患と症状			13	【到達目標】 認知症の評価の方法を説明できる 【授業内容】 認知症の評価方法		
6	【到達目標】 記憶障害の評価、リハビリテーションの方法を説明できる 【授業内容】 記憶障害の評価とリハビリテーション			14	【到達目標】 認知症のリハビリテーションの方法を説明できる 【授業内容】 認知症のリハビリテーションの方法		
7	【到達目標】 HDS-R、MMSEの検査を実施できる 【授業内容】 HDS-R、MMSEによる評価演習			15	【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を説明できる 【授業内容】 定期試験・解説		
8	【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を説明できる 【授業内容】 中間試験・解説			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70％に満たない場合はE評価			
【特記事項】 グループ演習課題では課題実施とともに知識や疑問点の共有を積極的に行って下さい。							

科目名 (英)	機能性構音障害 Speech Disorders	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	中澤 裕也
		授業 形態	講義	総単位 時間	30	開講区分 曜日・時間	後期 火曜 1限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 言語発達障害児に言語聴覚士として、7年程度の勤務経験あり。ボーテージ早期教育プログラム認定相談員。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 本科目では、機能性構音障害についての基礎知識や評価法・訓練プログラムの立案方法などを、教科書・参考資料を使用し講義を行うとともに、担当教員が臨床で経験した症例や知識を生かした講義や質疑応答形式・グループワークなどを行う。さらに動画・音声教材などを活用し、より具体的に臨床像を掴む事で、理解を深めて欲しい。							
【到達目標】 機能性構音障害についての定義・誤り音の種類や異常構音のタイプなど基礎的な知識を学び、説明する事ができる。 機能性構音障害の評価法である構音検査の実施方法と結果の解釈を理解し実施する事ができる。 構音障害のタイプに応じて訓練方法の選択・訓練プログラムの立案の方法を学び、説明する事ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 「構音障害の臨床―基礎的知識と実践マニュアル改訂第2版」金原出版 ・異常構音サンプルCD、配布資料				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので、予習復習を行う事。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 構音の概要やメカニズム・構音器官についての概要を理解し、説明出来る。また、構音の発達について、子音の獲得時期等を理解し、説明出来る。 【授業内容】 発声・共鳴・構音について 子音の獲得時期について			9	【到達目標】 タ行音・ダ行音の訓練方法の概要を学び実践できる。□ □ 【授業内容】 タ・ダ行音の構音訓練方法の演習		
2	【到達目標】 構音障害の誤り音の分類と構音障害の概要を理解し、説明できる。異常構音の定義と特徴を理解し、違いを説明出来る。 【授業内容】 構音の誤りのタイプ3つ 異常構音について			10	【到達目標】 サ行音・ツ・ズの訓練方法の概要を学び実践できる。□ □ 【授業内容】 サ・ザ・ツ・ズ行音の構音訓練方法の演習		
3	【到達目標】 構音検査の概要と実施内容・方法を理解し、説明できる。また、グループで演習することが出来る。 【授業内容】 構音検査の演習① 検査の実施方法			11	【到達目標】 異常構音の訓練方法の概要を学び実践できる。 【授業内容】 側音化構音・口蓋化構音の構音訓練について		
4	【到達目標】 構音検査のサンプルから、構音の誤りを記録用紙に記録する事ができる。また、グループで検査結果をまとめる事ができる。 【授業内容】 構音検査の演習② 検査の記録方法			12	【到達目標】 異常構音の訓練方法のの概要を学び、説明できる。 【授業内容】 咽頭破裂音・咽頭破擦音・声門破裂音の構音訓練について		
5	【到達目標】 構音検査のサンプルから、構音の誤りを記録用紙に記録する事ができる。また、グループで検査結果をまとめる事ができる。 【授業内容】 構音検査の演習③ 検査のまとめの仕方			13	【到達目標】 実際の構音検査の音声を聞いて、IPAを用いて検査結果を記録できる。また、グループで記録をまとめることが出来る。 【授業内容】 IPAの再確認。 構音検査の記録の仕方。		
6	【到達目標】 構音訓練の概要や注意点などを学び、説明出来る。また、系統的構音訓練の手順を学び、説明出来る。 【授業内容】 系統的構音訓練について 構音訓練(舌の脱力)について			14	【到達目標】 機能性構音訓練の実際について、異常構音別の出現率などを理解し、説明できる。 【授業内容】 異常構音別の出現率など。 鼻咽腔閉鎖機能に関する評価について		
7	【到達目標】 カ行音・ガ行音の訓練方法の概要を学び実践できる。 【授業内容】 カ・ガ行音の構音訓練方法の演習			15	【到達目標】 講義内容についての定期試験を実施し、知識の定着を図る。 【授業内容】 定期試験		
8	【到達目標】 中間テスト。これまでの講義内容の復習をし、内容を理解する。 カ行の構音訓練の演習 【授業内容】 中間テスト。 カ・ガ行音の構音訓練方法の演習			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅱ Language Development DisordersⅡ	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	中澤 裕也
		授業 形態	講義	総単位 時間	60	開講区分 曜日・時間	後期 金曜 2・3限
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】(担当する授業科目に関連した実務経験) 言語発達障害児に言語聴覚士として、7年程度の勤務経験あり。ポーター早期教育プログラム認定相談員。							
【授業の学習内容】(どのような実務経験を持つ教員がその実務経験を活かして、どのような教育を行うか) 言語発達障害児・知的障害児・発達障害児に対して、実際に言語聴覚療法行なった経験から、評価・診断・訓練プログラムの現状や必要な知識・ポイントを具体的に講義し、より理解を深める。また、小児学内実習施設で子どもの言語聴覚療法を見学し、実際の障害像を理解したり、DVD教材などを使用して言語発達障害児の全体像をより具体的に掴む。さらにグループワークにて見学した内容のまとめや訓練プログラムの立案を行い、小児の臨床について理解を深める。							
【到達目標】 言語発達障害の評価・診断に必要な情報や検査について理解し、説明出来る。 小児学内実習施設にて、実際の指導場面を見学し、記録しまとめる事が出来る。 評価・診断の結果から、訓練プログラムを立案・実施する事ができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・言語聴覚士のための臨床実習テキスト 小児編 ・言語聴覚障害診断―小児編― ・標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版 ・DVD教材				【授業外における学習】 専門用語が出てくるので、予習復習を行う事。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1・2	【到達目標】 特異的言語発達障害学(SLI)の基礎知識・評価について学び、説明できる。 【授業内容】 SLIの定義。 発達段階別の言語・コミュニケーションの特徴。			17・18	【到達目標】(ことばの教室) 小児学内実習で対象児に言語聴覚療法を実施できる。 【授業内容】 見学内容の記録。言語聴覚療法検査・評価の実施。訓練計画の立案。基本的な言語聴覚療法の実施。		
3・4	【到達目標】 特異的言語発達障害学(SLI)のについて学び、説明できる。 実際に評価スケールを実施することができる。 【授業内容】 SLIの評価方法の概要とLCスケールの概要方法。 グループでの演習。			19・20	【到達目標】(ことばの教室) 小児学内実習で対象児に言語聴覚療法を実施できる。 【授業内容】 見学内容の記録。言語聴覚療法検査・評価の実施。訓練計画の立案。基本的な言語聴覚療法の実施。		
5・6	【到達目標】 LCスケールを実施することができる。 SLIの言語指導や支援方法を学び、説明できる。 【授業内容】 SLIの評価方法の演習。 SLIの言語指導・その他支援方法について。			21・22	【到達目標】(ことばの教室) 小児学内実習で対象児に言語聴覚療法を実施できる。 【授業内容】 見学内容の記録。言語聴覚療法検査・評価の実施。訓練計画の立案。基本的な言語聴覚療法の実施。		
7・8	【到達目標】 動画から限局性学習障害について学び、グループワークで理解を深める。限局性学習障害の基礎知識を学び、説明できる。 【授業内容】 学習障害の臨床像など「書字読字困難」(動画視聴)。 限局性学習障害の定義。学習障害の各タイプ。			23・24	【到達目標】(ことばの教室) 小児学内実習で対象児に言語聴覚療法を実施できる。 【授業内容】 見学内容の記録。言語聴覚療法検査・評価の実施。訓練計画の立案。基本的な言語聴覚療法の実施。		
9・10	【到達目標】 発達性ディスレクシアについて、定義・評価・支援方法について学び、説明できる。 【授業内容】 発達性ディスレクシアの定義・評価・支援方法。			25・26	【到達目標】(ことばの教室) 小児学内実習で対象児に言語聴覚療法を実施できる。 【授業内容】 見学内容の記録。言語聴覚療法検査・評価の実施。訓練計画の立案。基本的な言語聴覚療法の実施。		
11・12	【到達目標】 注意欠陥・多動性障害(ADHD)の定義・概要を学び、説明できる。 【授業内容】 ADHDの定義・言語・コミュニケーションの特徴。			27・28	【到達目標】(ことばの教室) 小児学内実習で対象児に言語聴覚療法を実施できる。 【授業内容】 見学内容の記録。言語聴覚療法検査・評価の実施。訓練計画の立案。基本的な言語聴覚療法の実施。		
13・14	【到達目標】 注意欠陥・多動性障害(ADHD)の評価・支援を学び、説明できる。 【授業内容】 ADHDの評価(検査法の概要)と具体的な支援方法。			29・30	【到達目標】 言語発達障害学Ⅱの総復習 定期試験は、これまでの講義内容の復習をし、内容を理解する。 【授業内容】 動画の視聴。 定期試験。		
15・16	【到達目標】 インリアルアプローチについて、概要やSOULの基本姿勢や言語心理学的技法について学び、実践できる。ことばの教室の概要説明。 【授業内容】 インリアルアプローチ。ことばの教室について。			【評価について】 定期試験60点:座学から出題。 小テスト(2コマに1回)・中間テスト40点(ことばの教室)の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施することがある。)			
【特記事項】							

科目名 (英)	国際教育 Overseas Training	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥山裕太、矢代のぞみ
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	演習	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 月・火・水・木・金
【実務経験】 医療系学校で勤務、医療系・工学系科目を中心に授業を実施、チームで課題解決能力を図る学習法を確立してきた教務経験を持つ。 多様な業種の人材マッチングを通じて、調整力と課題解決力を発揮し、円滑な就業支援体制の構築に携わってきた経験を持つ。							
【授業の学習内容】 建学の理念である『国際教育』の観点に基づき、自国と他国の言語(歴史、文化)コミュニケーション方法を学び、国際的な感性から専門的な知識を深める。講義から職業の魅力を知り、なりたい気持ちを高める。自国の事を他国へ発信出来、他国の事を受け入れる機会とし、学生自身のコミュニケーションスキルに活かせる							
【到達目標】 ・自国や他国の言語(歴史、文化)コミュニケーション方法の理解を深め、専門的な知識を身につける ・言語が違う中での多文化共生を学び、職業人としてのコミュニケーションスキルを高められる ・言語聴覚士の魅力をさらに深め、今後の学校生活の活力とする							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 多文化共生を学ぶことで、コミュニケーションの視点から自国の歴史や文化の理解を深める事が出来る 【授業内容】 国によるコミュニケーションの違いを学ぶ			9	【到達目標】 国際教育の視点から言語聴覚士に必要なスキルを考える事が出来る 【授業内容】 国際教育の最終日へ向けての準備と演習		
2	【到達目標】 多文化共生を学ぶことで、コミュニケーションの視点から自国の歴史や文化の理解を深める事が出来る 【授業内容】 国によるコミュニケーションの違いを学ぶ			10	【到達目標】 個々で主体性を発揮し、個人の役割をこなす。クラスで協同して企画運営を行う事が出来る 【授業内容】 国際教育最終日のリハーサル		
3	【到達目標】 多文化共生を学ぶことで、コミュニケーションの視点から自国の歴史や文化の理解を深める事が出来る 【授業内容】 国によるコミュニケーションの違いを学ぶ			11	【到達目標】 個々で主体性を発揮し、個人の役割をこなす。クラスで協同して企画運営を行う事が出来る 【授業内容】 国際教育最終日のリハーサル		
4	【到達目標】 多様性を受け入れる機会から自国の歴史や文化を発信する事が出来る 【授業内容】 国際教育の最終日へ向けての企画を考える			12	【到達目標】 個々で主体性を発揮し、個人の役割をこなす。クラスで協同して企画運営を行う事が出来る 【授業内容】 国際教育最終日のリハーサル		
5	【到達目標】 多様性を受け入れる機会から自国の歴史や文化を発信する事が出来る 【授業内容】 国際教育の最終日へ向けての企画を考える			13	【到達目標】 多学科で交流し、多文化共生を学ぶことで職業人としてのコミュニケーションスキルを高められる 【授業内容】 多学科へ企画の実施、多学科の企画参加		
6	【到達目標】 多様性を受け入れる機会から自国の歴史や文化を発信する事が出来る 【授業内容】 国際教育の最終日へ向けての企画を考える			14	【到達目標】 多学科で交流し、多文化共生を学ぶことで職業人としてのコミュニケーションスキルを高められる 【授業内容】 多学科へ企画の実施、多学科の企画参加		
7	【到達目標】 国際教育の視点から言語聴覚士に必要なスキルを考える事が出来る 【授業内容】 国際教育の最終日へ向けての準備と演習			15	【到達目標】 多学科で交流し、多文化共生を学ぶことで職業人としてのコミュニケーションスキルを高められる 【授業内容】 多学科へ企画の実施、多学科の企画参加		
8	【到達目標】 国際教育の視点から言語聴覚士に必要なスキルを考える事が出来る 【授業内容】 国際教育の最終日へ向けての準備と演習			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数 100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価(特別補講を実施)			
【特記事項】							

科目名 (英)	実習教育Ⅰ	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	学科教員
	Overseas Training	授業 形態	演習	総単位 時間	15	開講区分 曜日・時間	後期 月・火・水・木・金
学科・コース	言語聴覚士科						
【実務経験】							
学科教員							
【授業の学習内容】							
本講義では、見学実習に向けて実習の基礎的ルールを理解し、今後の臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱに向けて、適切な評価診断と治療プログラム立案を学生が実施できるように基礎を学ぶ。							
【到達目標】							
見学実習や臨床実習の目的・意義を理解する。 実習の手引きを理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 実習生連絡票、各種検査マニュアル等				【授業外における学習】 検査練習			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【到達目標】 実習の基礎的情報の理解① 【授業内容】 グループワーク、手引きの読み合わせ			9	【到達目標】 【授業内容】		
2	【到達目標】 実習の基礎的情報の理解② 【授業内容】 グループワーク、手引きの読み合わせ			10	【到達目標】 【授業内容】		
3	【到達目標】 実習の基礎的情報の理解③ 【授業内容】 グループワーク、手引きの読み合わせ			11	【到達目標】 【授業内容】		
4	【到達目標】 実習に向けた具体的な行動の理解① 【授業内容】 グループワーク、報告連絡相談の練習			12	【到達目標】 【授業内容】		
5	【到達目標】 実習に向けた具体的な行動の理解② 【授業内容】 グループワーク、報告連絡相談の実践			13	【到達目標】 【授業内容】		
6	【到達目標】 実習に向けた具体的な行動の理解③ 【授業内容】 グループワーク、事例検討			14	【到達目標】 【授業内容】		
7	【到達目標】 実習に向けた具体的な行動の理解④ 【授業内容】 グループワーク、事例検討			15	【到達目標】 【授業内容】		
8	【到達目標】 今まで理解したことを表出できる 【授業内容】 総復習（筆記・実技試験）			【評価について】 筆記試験による定期試験60点、毎回の小テスト40点の配分を総合し評価する。 ○成績評価 点数100～90点＝A評価 点数 89～80点＝B評価 点数 79～70点＝C評価 点数 69～60点＝D評価 点数 59点以下＝F評価 ※出席が70%に満たない場合はE評価（特別補講を実施）			
【特記事項】							